

JobCenter

R13.1

<操作・実行ログ機能 利用の手引き>

-
- Windows XP, Windows Vista, Windows 7, Windows Server 2003, Windows Server 2008, Windows Server 2012 および Excel は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
 - UNIX は、The Open Groupが独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。
 - Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。
 - SAP, ERP, BI は、SAP AG の商標もしくは登録商標です。
 - HP-UX は、米国 Hewlett-Packard 社の商標です。
 - AIX は、米国 IBM Corporation の商標です。
 - NQSは、NASA Ames Research Center のために Sterling Software 社が開発した Network Queuing System です。
 - Oracle、Oracle Clusterware及びJavaは、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。
 - Red Hat は、Red Hat,Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
 - その他、本書に記載されているソフトウェア製品およびハードウェア製品の名称は、関係各社の登録商標または商標です。

なお、本書内では、R、TM、cの記号は省略しています。

輸出する際の注意事項

本製品(ソフトウェア)は、外国為替令に定める提供を規制される技術に該当いたしますので、日本国外へ持ち出す際には日本国政府の役務取引許可申請等必要な手続きをお取りください。許可手続き等にあたり特別な資料等が必要な場合には、お買い上げの販売店またはお近くの当社営業拠点にご相談ください。

はじめに

本書は、JobCenter CL/Win からの操作ログ、および、ジョブネットワークの実行記録ログのフォーマットと、CL/Win からの取得設定方法について説明しています。なお、本書内に記載されている画面例と実際の画面とは異なることがありますので注意してください。

本書の内容は将来、予告なしに変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

1. 読み方

JobCenter を新規にインストール、またはバージョンアップされる場合

→ インストールガイドを参照してください。

JobCenter を初めて利用される場合

→ クイックスタート編を目次に従いお読みください。

JobCenter の基本的な操作方法を理解したい場合

→ 基本操作ガイドを目次に従いお読みください。

環境の構築や各種機能の設定を理解したい場合

→ 環境構築ガイドを参照してください。

その他機能についてお知りになりたい場合

→ 関連マニュアルの内容をお読みいただき、目的のマニュアルを参照してください。

2. 凡例

本書内での凡例を紹介します。

		気をつけて読んでいただきたい内容です。
		本文中の補足説明
注		本文中につけた注の説明
—		UNIX版のインストール画面の説明では、__部分(下線部分)はキーボードからの入力を示します。

3. 関連マニュアル

JobCenter に関するマニュアルです。JobCenter メディア内に格納されています。

最新のマニュアルは、JobCenter 製品サイトのダウンロードのページを参照してください。

<http://www.nec.co.jp/middle/WebSAM/products/JobCenter/download.html>

資料名	概要
JobCenter インストールガイド	JobCenterを新規にインストール、またはバージョンアップする場合の方法について説明しています。
JobCenter クイックスタート編	初めてJobCenterをお使いになる方を対象に、JobCenterの基本的な機能と一通りの操作を説明しています。
JobCenter 基本操作ガイド	JobCenterの基本機能、操作方法について説明しています。
JobCenter 環境構築ガイド	JobCenterを利用するために必要な環境の構築、環境の移行や他製品との連携などの各種設定方法について説明しています。
JobCenter NQS機能利用の手引き	JobCenterの基盤であるNQSの機能をJobCenterから利用する方法について説明しています。
JobCenter 操作・実行ログ機能利用の手引き	JobCenter CL/Winからの操作ログ、ジョブネットワーク実行ログ取得機能および設定方法について説明しています。
JobCenter コマンドリファレンス	GUIと同様にジョブネットワークの投入、実行状況の参照などをコマンドラインから行うために、JobCenterで用意されているコマンドについて説明しています。
JobCenter クラスタ機能利用の手引き	クラスタシステムでJobCenterを操作するための連携方法について説明しています。
JobCenter Helper機能利用の手引き	Excelを用いたJobCenterの効率的な運用をサポートするJobCenter Definition Helper (定義情報のメンテナンス)、JobCenter Report Helper (帳票作成)、JobCenter Analysis Helper (性能分析)の3つの機能について説明しています。
JobCenter SAP機能利用の手引き	JobCenterをSAPと連携させるための方法について説明しています。
JobCenter UCXSingleジョブ利用ガイド	JobCenterをUCXSingleと連携させるための方法について説明しています。
JobCenter WebOTX Batch Server連携機能利用の手引き	JobCenterをWebOTX Batch Serverと連携させるための方法について説明しています。
JobCenter Web機能利用の手引き	Webブラウザ上でジョブ監視を行うことができるJobCenter CL/Webについて説明しています。
JobCenter テキスト定義機能の利用手引き	ジョブネットワークやスケジュール、カレンダー、カスタムジョブテンプレートを、テキストファイルを使って定義する方法を説明しています。

JobCenter クラスタ環境でのバージョンアップ・パッチ適用ガイド	クラスタ環境で運用しているJobCenterのアップデート、パッチ適用手順を説明しています。
JobCenter R13.1 リリースメモ	バージョン固有の情報を記載しています。

4. 改版履歴

版数	変更日付	項目	形式	変更内容
1	2012/07/31	新規作成	—	第1版
2	2012/09/19	修正	—	旧アイコンの画像を差し替え 「7.1.2.5.11 ジョブネットワーク待ち合わせ」のサブジョブネットワーク待ち合わせをジョブネットワーク待ち合わせに名称変更
3	2012/10/05	版改訂	—	R13.1.1リリースに伴い版改訂
4	2012/12/21	版改訂	—	R13.1.2リリースに伴い版改訂
5	2013/05/10	版改訂	—	R13.1.3リリースに伴い版改訂
6	2013/12/27	修正	—	「4.1.5 TargetNameフィールド」、「6.5.1 TargetNameフィールドに関する差異」、「6.5.2 Operationフィールドに関する差異」「サブJNW待ち合わせ」を「ジョブネットワーク待ち合わせ」に修正 R13.1.4リリースに伴い版改訂

目次

はじめに	iii
1. 読み方	iv
2. 凡例	v
3. 関連マニュアル	vi
4. 改版履歴	viii
1. 操作・実行ログ機能概要	1
1.1. 操作・実行ログ機能の構成	2
2. 操作ログ・実行ログ	3
2.1. 操作ログ	4
2.1.1. 格納パス (Windows版)	4
2.1.2. 格納パス (UNIX版)	4
2.2. 実行ログ	5
2.2.1. 格納パス (Windows版)	5
2.2.2. 格納パス (UNIX版)	5
3. 操作・実行ログの取得設定	6
3.1. 「システム環境設定」ダイアログ	7
3.2. 設定項目	8
3.3. ログのバックアップファイル作成	9
4. ログフォーマット	10
4.1. 操作ログ	11
4.1.1. LocalTimeフィールド	11
4.1.2. UserNameフィールド	11
4.1.3. MachineNameフィールド	11
4.1.4. TargetTypeフィールド	11
4.1.5. TargetNameフィールド	12
4.1.6. Operationフィールド	13
4.2. 実行ログ	16
4.2.1. LocalTimeフィールド	16
4.2.2. UserNameフィールド	16
4.2.3. TrackerNameフィールド	16
4.2.4. EventTypeフィールド	17
4.2.5. EndStatusフィールド	17
4.2.6. StartTimeフィールド	17
4.2.7. EndTimeフィールド	17
4.2.8. 親子関係のあるジョブネットワーク実行時の実行ログ出力	17
5. 注意事項・制限事項	19
5.1. 文字コードに関する注意事項	20
5.2. TZシステム環境変数に関する注意事項 (Windows版)	21
5.3. マシングループ構成時の注意事項	22
6. 過去バージョンとの差異	23
6.1. R13.1での変更点	24
6.2. R12.10での変更点	26
6.3. R12.9での変更点	28
6.4. R12.8での変更点	30
6.5. R12.6での変更点	32
6.5.1. TargetNameフィールドに関する差異	32
6.5.2. Operationフィールドに関する差異	32
7. 画面上の操作と操作ログの対応	35
7.1. ユーザフレーム	36
7.1.1. [ジョブネットワーク一覧] タブ	36
7.1.2. [トラッカー一覧] タブ	40
7.1.3. [スケジュール一覧] タブ	53
7.1.4. [ユーザメニュー] タブ	54
7.1.5. [システム環境設定] ダイアログ	55
7.1.6. [ユーザ環境設定] ダイアログ	56

7.1.7. ジョブネットワークフローウィンドウ	56
7.2. マネージャフレーム	64
7.2.1. [カレンダー覧] タブ	64
7.3. その他	65
7.3.1. ログイン・ログアウト	65
7.3.2. [パーミッション設定] ダイアログ	66
7.3.3. [マシングループ]ダイアログ	67
7.3.4. JPFのアップロード、ダウンロード	68

目次

1.1. 操作・実行ログ機能の構成	2
3.1. [操作・実行ログ] タブ	7
3.2. ログのバックアップファイル作成	9
4.1. 親子関係を持つジョブネットワーク	18
7.1. グループに対する操作	36
7.2. ユーザフレーム上でのジョブネットワークに対する操作	37
7.3. デフォルトパラメータに対する操作	38
7.4. ショートカットに対する操作	39
7.5. ショートカットに対する操作	39
7.6. トラッカに対する操作（共通）	40
7.7. 予定トラッカに対する操作	41
7.8. 予定(確定)トラッカに対する操作	42
7.9. 予定、予定(確定)トラッカフローの修正	42
7.10. 単位ジョブトラッカに対する操作	43
7.11. ERPジョブトラッカに対する操作	44
7.12. BIジョブトラッカに対する操作	45
7.13. PCジョブトラッカに対する操作	46
7.14. UCXSingleジョブトラッカに対する操作	47
7.15. ダイアログ部品トラッカに対する操作	48
7.16. コンティニュー部品トラッカに対する操作	49
7.17. サブジョブネットワークトラッカに対する操作	50
7.18. イベント送信部品トラッカに対する操作	51
7.19. イベント受信部品トラッカに対する操作	51
7.20. ジョブネットワーク待ち合わせ部品トラッカに対する操作	52
7.21. ジョブ待ち合わせ部品トラッカに対する操作	52
7.22. ファイル待ち合わせ部品トラッカに対する操作	53
7.23. 時刻待ち合わせ部品トラッカに対する操作	53
7.24. スケジュールグループに対する操作	54
7.25. スケジュールに対する操作	54
7.26. ユーザメニューの操作	55
7.27. システム環境設定に対する操作	55
7.28. ユーザ環境設定に対する操作	56
7.29. ジョブネットワークフローに対する操作	57
7.30. 単位ジョブに対する操作	58
7.31. ERPジョブに対する操作	59
7.32. BIジョブに対する操作	60
7.33. PCジョブに対する操作	60
7.34. UCXSingleジョブに対する操作	61
7.35. ダイアログ部品に対する操作	61
7.36. コンティニュー部品に対する操作	62
7.37. イベント送信部品に対する操作	62
7.38. イベント受信部品に対する操作	63
7.39. マネージャフレーム上でのカレンダーに対する操作	64
7.40. ログイン画面での操作	65
7.41. ログアウト操作	66
7.42. パーミッション設定の操作	67
7.43. マシングループに対する操作	68
7.44. JPFのアップロード・ダウンロード	69

表目次

4.1. 操作対象とTargetTypeフィールドの関連	12
4.2. 操作対象とTargetNameフィールドの関連	12
4.3. TargetTypeとOperationフィールドの出力	13
4.4. ジョブネットワーク状態とEventTypeフィールドの対応	17
4.5. ジョブネットワーク終了状態とEndStatusフィールドの対応	17
6.1. R13.1の全操作ログの種類	24
6.2. R12.10の全操作ログの種類	26
6.3. R12.9の全操作ログの種類	28
6.4. R12.8の全操作ログの種類	30
6.5. 操作内容とTargetNameフィールドの関連	32
6.6. 操作内容とOperationフィールドの関連	32
6.7. 部品別の実行可能操作一覧(1)	33
6.8. 部品別の実行可能操作一覧(2)	33

第1章 操作・実行ログ機能概要

JobCenter操作・実行ログ機能は、オペレータによってCL/Winおよびコマンドラインやサーバ環境設定から行われた操作の記録(操作ログ)と、MG/SV上でのジョブネットワークの開始・終了の記録(実行ログ)を保存する機能です。

1.1. 操作・実行ログ機能の構成

JobCenter操作・実行ログ機能は、JobCenter CL/Winおよびコマンドラインやサーバ環境設定から行われた操作を記録する操作ログ出力機能と、JobCenterサーバ上でのジョブネットワークの実行履歴を記録する実行ログ出力機能から構成されます。

CL/Win操作およびジョブネットワーク実行についての構成例を図1.1「操作・実行ログ機能の構成」に示します。

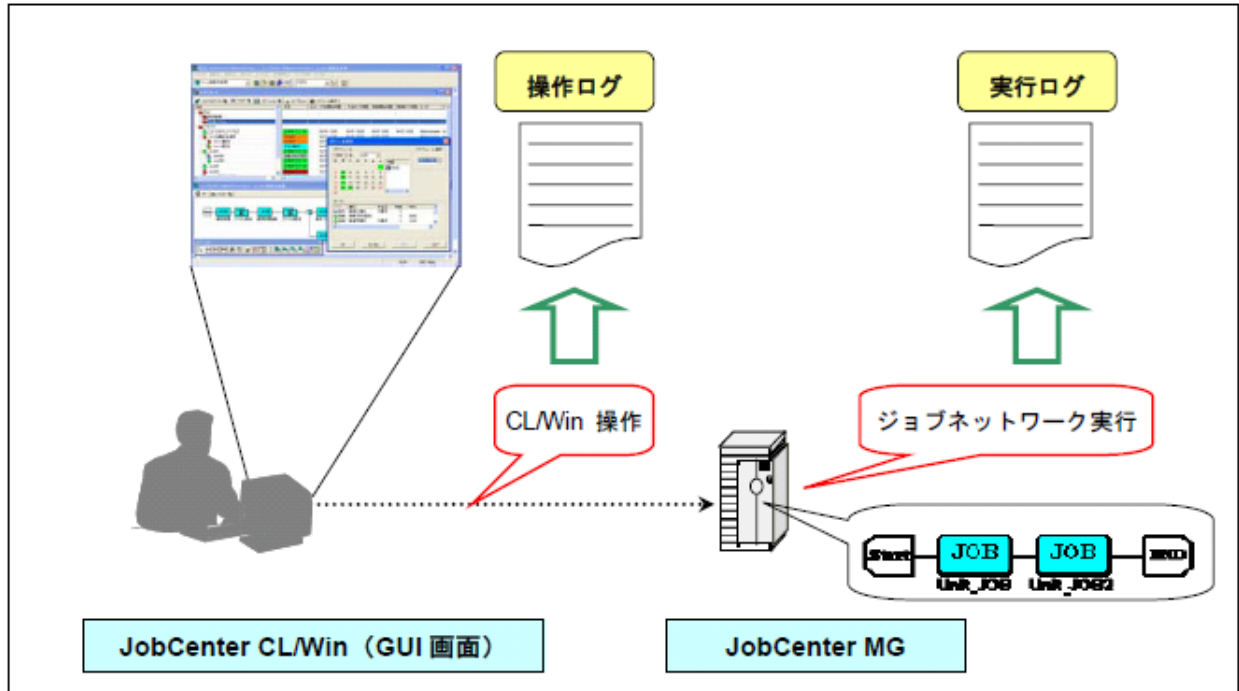


図1.1 操作・実行ログ機能の構成

ユーザが操作を行うと、実行された操作に応じて操作の日時、実行元ホスト名、実行ユーザ名、操作内容が操作ログとして出力されます。

ジョブネットワークが開始されると、開始時刻とジョブネットワーク所有者ユーザ名の情報と合わせて、ジョブネットワークの開始が実行ログとして出力されます。

ジョブネットワーク終了時は、開始時の情報に加えて終了状態(正常、警告、異常)の情報が実行ログに出力されます。

第2章 操作ログ・実行ログ

本章では、JobCenterが出力する操作ログ・実行ログの概要および格納パスについて説明します。



- 操作ログ・実行ログの格納パスに含まれる<IPアドレス>部分は、JobCenterが動作するクラスタサイトに割り当てられたリロケータブルIPアドレスの4つのオクテットを、それぞれ2文字の16進数として記した8文字の文字列が入ります。
- 操作ログ・実行ログの格納パスに含まれる%JobCenterDatabaseDirectory%部分は、JobCenter共有データベースが配置されているパスを指します。
- 操作ログ・実行ログの格納パスに含まれる%InstallDirectory%部分は、Windows版JobCenter MG/SVがインストールされたディレクトリのパスを指します。このパスはJobCenterインストール時に指定可能で、デフォルトでは"C:\JobCenter\SV"が指定されます。

2.1. 操作ログ

操作ログは、CL/Winおよびコマンドラインやサーバ環境設定から実行された操作に対して

- 操作実行時刻
- 操作実行ユーザ名
- 操作実行元ホスト
- 操作対象種類
- 操作対象名
- 操作内容

の情報を出力します。

操作ログはCSV形式で出力され、1つの操作に対して1行出力されます。各出力内容の概要、およびフォーマットに関しては「4.1 操作ログ」を参照してください。

ログファイル名の「YYYYMMDD」部分はログが出力された年月日を表し、2007年1月1日に出力されたログの場合、この部分は「20070101」となります。

2.1.1. 格納パス (Windows版)

Windows版では、操作ログは以下の場所に配置されます。

- ローカルサイトの場合

```
%InstallDirectory%\spool\log\record\op\record_op_YYYYMMDD.csv
```

- クラスタサイトの場合

```
%JobCenterDatabaseDirectory%\spool\log\record\op\record_op_YYYYMMDD.csv
```



- %InstallDirectory%はJobCenterのインストールディレクトリです。デフォルトはC:\JobCenter\SVになります。
- %JobCenterDatabaseDirectory%は、cjcmksite時に指定した共有ディスク上のデータベースディレクトリです。

2.1.2. 格納パス (UNIX版)

UNIX版では、操作ログは以下の場所に配置されます。

- ローカルサイトの場合

```
/usr/spool/nqs/log/record/op/record_op_YYYYMMDD.csv
```

- クラスタサイトの場合

```
/usr/spool/nqs/<IPアドレス>/log/record/op/record_op_YYYYMMDD.csv
```


2.2. 実行ログ

実行ログはJobCenterサーバ上で実行されるジョブネットワークに対して、

- 開始(終了)時刻
- ジョブネットワーク所有ユーザ名
- ジョブネットワーク状態

の情報を出力します。

実行ログはCSV形式で出力され、1つのジョブネットワークの開始終了1件ごとに1行出力されます。各出力内容の概要、およびフォーマットに関しては「4.2 実行ログ」を参照してください。

ログファイル名の「YYYYMMDD」部分はログが出力された年月日を表し、2007年1月1日に出力されたログの場合、この部分は「20070101」となります。

2.2.1. 格納パス (Windows版)

Windows版では、実行ログは以下の場所に配置されます。

- ローカルサイトの場合

```
%InstallDirectory%\spool\log\record\exe\record_exe_YYYYMMDD.csv
```

- クラスタサイトの場合

```
%JobCenterDatabaseDirectory%\spool\log\record\exe\record_exe_YYYYMMDD.csv
```



- %InstallDirectory%はJobCenterのインストールディレクトリです。デフォルトはC:\JobCenter\SVになります。
- %JobCenterDatabaseDirectory%は、cjcmksite時に指定した共有ディスク上のデータベースディレクトリです。

2.2.2. 格納パス (UNIX版)

UNIX版では、実行ログは以下の場所に配置されます。

- ローカルサイトの場合

```
/usr/spool/nqs/log/record/exe/record_exe_YYYYMMDD.csv
```

- クラスタサイトの場合

```
/usr/spool/nqs/<IPアドレス>/log/record/exe/record_exe_YYYYMMDD.csv
```

第3章 操作・実行ログの取得設定

本章では、JobCenter CL/Winの画面上から、操作・実行ログの取得設定を行う方法を説明します。

3.1. 「システム環境設定」ダイアログ

操作・実行ログの取得設定は、JobCenter CL/Winの「システム環境設定」ダイアログから行います。

メニューバーの「設定」－「システム環境設定」を選択します。「システム環境設定」ダイアログの「操作・実行ログ」タブで設定します。

この設定を変更するには、管理者権限のアカウント(UMS Mode)でログインする必要があります。

各設定項目の詳細に関しては「[3.2 設定項目](#)」を参照してください。

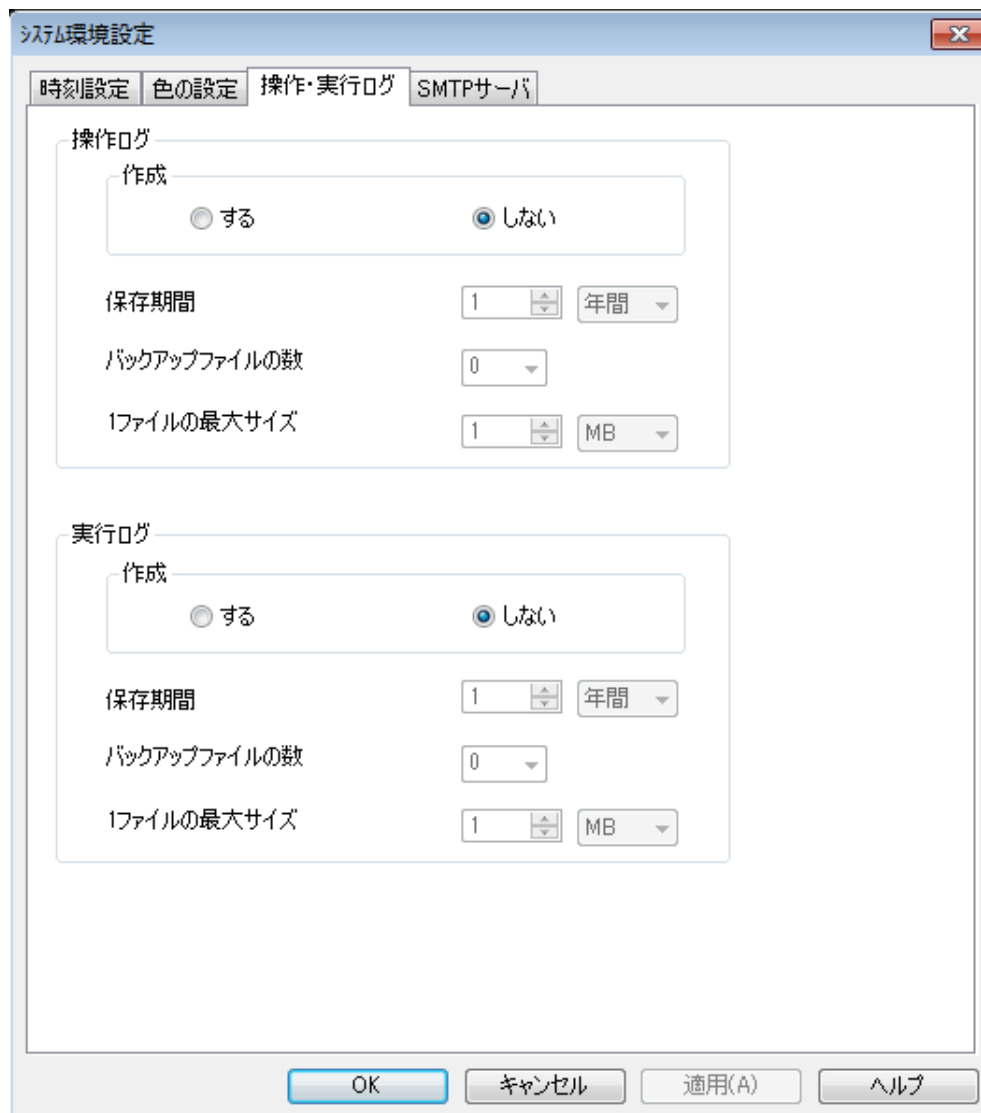


図3.1 「操作・実行ログ」タブ

3.2. 設定項目

「システム環境設定」ダイアログの「操作実行ログ」タブから設定可能な項目は以下のとおりです。

■作成

操作ログ・実行ログを取得するかどうかを設定します。

インストール直後は、「しない」が設定されています。

する	操作ログ、実行ログを取得します
しない	操作ログ、実行ログを取得しません

「する」を選択した場合、保存期間、バックアップファイルの数、1ファイルの最大サイズの各項目が設定可能になります。

■保存期間

当日から過去何日分のログを保存するかを設定します。数値と単位の組み合わせにより、1～365日、および、1～5年間が設定可能です。1～5年間を指定した場合、年数に365を乗じた日数分のログが保存されます。

インストール直後は 1年間 が設定されています。

保存期間を過ぎたログは自動的に削除されます。

■バックアップファイルの数

ログのバックアップファイルをいくつ作成するかを設定します。0 から 9 までの値が設定可能です。0 が設定された場合、バックアップファイルは作成されません。インストール直後は 0 が設定されています。

ログファイルのバックアップ処理に関しては「[3.3 ログのバックアップファイル作成](#)」を参照してください。

■1ファイルの最大サイズ

1つのログファイルの最大サイズを設定します。数値と単位の組み合わせにより、1～1024キロバイト、および、1～1024メガバイトが設定可能です。インストール直後は [1MB] が設定されています。

3.3. ログのバックアップファイル作成

操作・実行ログのサイズが指定された最大サイズを超えた場合、それらは別名で保存され、それ以降のログは新しいファイルに出力されます。操作・実行ログのバックアップファイルは下記の名前で保存されます。

操作ログ	record_op_YYYYMMDD_n.csv (n = 1,2, ...,9)
実行ログ	record_exe_YYYYMMDD_n.csv (n = 1,2, ...,9)

ログファイル名の「YYYYMMDD」部分はログが出力された年月日を表します。例えば2007年1月1日に出力されたログの場合、この部分は「20070101」となります。「_n」部分は、そのファイルがn番目に新しいバックアップファイルであることを表し、「バックアップファイルの数」で設定された個数のバックアップファイルが既に存在している場合、これ以上新しいバックアップファイルは作成されません。

バックアップファイル作成の処理の概要は次のとおりです。

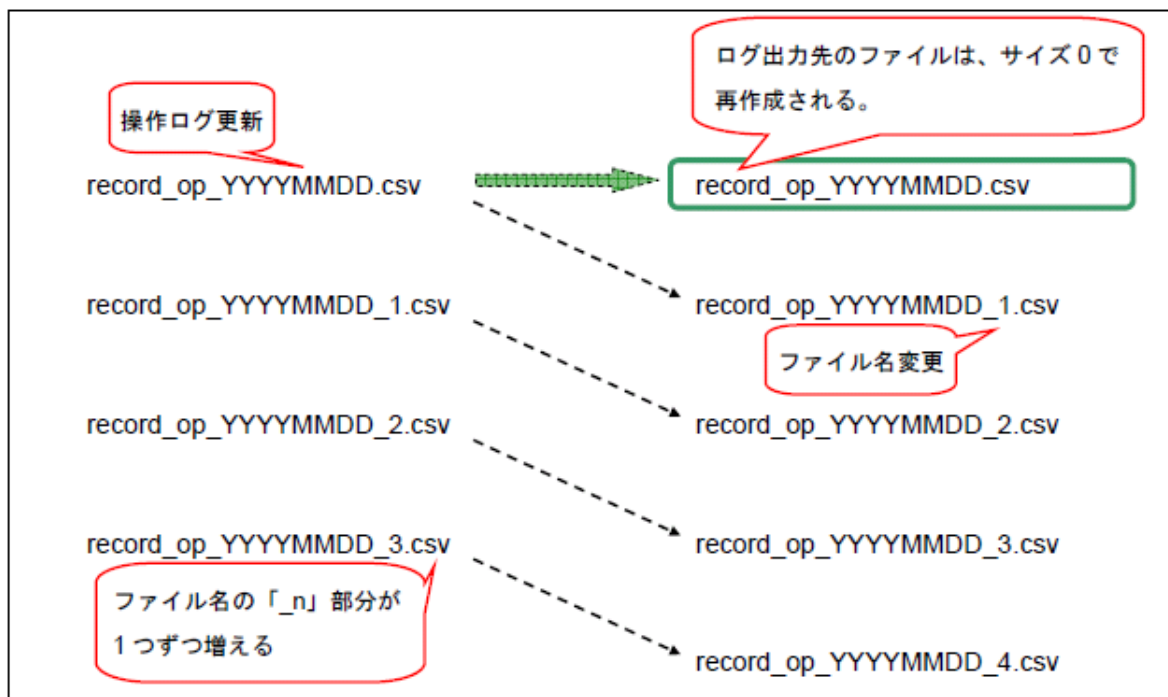


図3.2 ログのバックアップファイル作成

3個のバックアップが存在している状態で、操作ログファイル(record_op_YYYYMMDD.csv)の容量が最大サイズを超えるとバックアップファイルの「_n」部分の数字が1つずつ増加します。

操作ログファイルはrecord_op_YYYYMMDD_1.csvに名前が変更され、最新のバックアップファイルとして保存されます。バックアップ処理が完了した後、新しい操作ログファイルが作成されます。

第4章 ログフォーマット

本章では、操作ログ・実行ログのフォーマットに関して説明します。

4.1. 操作ログ

操作ログは実行された操作に関して、1回の操作につき1行分が下記のとおり6つのフィールドから構成され、それらがカンマ(,)で区切られたフォーマットで出力されます。

```
<LocalTime>,<UserName>,<MachineName>,<TargetType>,<TargetName>,<Operation>
```

CL/Win操作の例として、

■操作時刻：2007年1月1日 10時30分30秒000ミリ秒 (JST)

■操作実行ユーザ：testuser

■接続元ホスト名：testclient

■操作内容：ジョブネットワーク「testjnw」を「作成」

の操作を実行した場合、操作ログには、

```
2007/01/01 10:30:30.000(JST),testuser,testclient,JNW,testjnw,create
```

が出力されます。以下、各フィールドに関して説明します。

4.1.1. LocalTimeフィールド

操作が実行された日時が出力されます。

日時は、JobCenterサーバ側(CL/Win操作の場合は接続先JobCenterサーバ側)のローカルタイムが出力されます。例として、サーバのタイムゾーンが日本標準時(JST)で2007年1月1日 10時30分30秒000ミリ秒に操作が実行された場合、LocalTimeフィールドには次のように表示されます。

```
2007/01/01 10:30:30.000(JST)
```

(JST)の部分にはサーバのタイムゾーン名が表示されます。Windows版ではタイムゾーンに「(GMT+09:00) 大阪、札幌、東京」が選択されている場合、この部分には「(東京 (標準時))」と出力されます。

アルファベット表記のタイムゾーン名を表示させるには、システム環境変数TZを設定する必要があります。詳細は「[5.2 TZシステム環境変数に関する注意事項 \(Windows版\)](#)」を参照してください。

4.1.2. UserNameフィールド

操作を実行したユーザ名が出力されます。

これは「JobCenter サーバにログインしたユーザ名」と同様で、他ユーザのジョブネットワークおよびトラッカへのアクセス権限を持つユーザが、他ユーザのユーザフレームから操作を行った場合も、操作を実行したユーザ名が出力されます。

4.1.3. MachineNameフィールド

操作を実行したクライアント、つまりJobCenterサーバへの接続元マシン名が表示されます。接続元マシン名の逆引きができない場合は、接続元マシンのIPアドレスがMachineNameフィールドに表示されます。

コマンドラインやサーバ環境設定からの操作の場合は、操作を実施したマシン名が表示されます。

4.1.4. TargetTypeフィールド

操作対象の種類が出力されます。操作対象とTargetTypeフィールドに出力される文字列は次の通りです。

表4.1 操作対象とTargetTypeフィールドの関連

操作対象	TargetType
ログイン、ログアウト	USER
グループ	GRP
ジョブネットワーク	JNW
ショートカット	SCT
スケジュール	SCH
スケジュール、スケジュールグループ	SCHCTRL
カレンダー	CAL
トラック	TRK
ユーザ環境設定、デフォルトパラメータ	UCONF
システム環境設定、マシングループ設定	SCONF
パーミッション設定	MCONF
コマンドライン、サーバ環境設定	CMD
JPFのアップロード・ダウンロード	JPF

4.1.5. TargetNameフィールド

操作対象の名前が以下のように出力されます。

TargetNameフィールドに名前を出力	GRP(グループ)
	JNW(ジョブネットワーク)
	SCT(ショートカット)
	SCH(スケジュール、スケジュールグループ)
	CAL(カレンダー)
	TRK(トラック)
	UCONF(デフォルトパラメータ)
	SCONF(システム環境設定、マシングループ設定)
TargetNameフィールドにハイフン(-)を出力	USER(ログイン、ログアウト)
	UCONF(ユーザ環境設定)、
	MCONF(パーミッション設定)
	JPF(JPFファイルのアップロード・ダウンロード)
TargetNameフィールドに実行モジュール名を出力	CMD(コマンドライン、サーバ環境設定)

表4.2「操作対象とTargetNameフィールドの関連」に、CL/Win上での操作対象とTargetNameフィールドの出力一覧を示します。

表4.2 操作対象とTargetNameフィールドの関連

操作対象	TargetName
グループ	グループ名
ジョブネットワーク	JNW名
ショートカット	ショートカット先のJNW名
部品(単位ジョブ、ERPジョブ、BIジョブ、PCジョブ、UCXSingleジョブ、WOBSジョブ、カ	JNW名/部品名

スタムジョブ、ダイアログ、イベント送信、イベント受信)	
部品(コンティニュー)	JNW名
JNWトラッカ	JNW名.YYYYMMDDhhmmss
部品トラッカ(単位ジョブ、ERPジョブ、BIジョブ、PCジョブ、UCXSingleジョブ、WOBSジョブ、カスタムジョブ、ダイアログ、イベント送信、イベント受信)	JNW名.YYYYMMDDhhmmss/部品名
部品トラッカ(コンティニュー、ジョブネットワーク待ち合わせ、ジョブ待ち合わせ、ファイル待ち合わせ、時刻待ち合わせ)	JNW名.YYYYMMDDhhmmss
スケジュール	スケジュール名
スケジュールグループ	スケジュールグループ名
カレンダー	カレンダー名
デフォルトパラメータ(JNW)	param
デフォルトパラメータ(単位ジョブ)	unitjob
デフォルトパラメータ(ERP ジョブ)	sapjob
デフォルトパラメータ(BI ジョブ)	bwjob
デフォルトパラメータ(PC ジョブ)	pcjob
デフォルトパラメータ(UCXSingle ジョブ)	ucxsjob
デフォルトパラメータ(ダイアログ)	dialog
デフォルトパラメータ(イベント送信)	recvevent
デフォルトパラメータ(イベント受信)	sendevent
システム環境設定	conf
マシングループ設定	メンバマシン名
コマンドライン、サーバ環境設定	実行モジュール名

JobCenter CL/Win画面上の実際の操作と、TargetNameフィールドの出力結果の具体的な関連については7章「[画面上の操作と操作ログの対応](#)」参照してください。

4.1.6. Operationフィールド

実行された操作の種類が出力されます。TargetTypeごとに出力されるOperationフィールドの組み合わせの一覧は表4.3「[TargetTypeとOperationフィールドの出力](#)」のとおりです。

表4.3 TargetTypeとOperationフィールドの出力

TargetType	Operation	実際の操作
USER	login	ログイン
	logout	ログアウト
GRP	create	新規作成
	delete	強制削除
	rename	名前の変更
	copy	コピー
	move	移動、通常削除
JNW	create	新規作成
	delete	削除
	submit	即時投入

	rename	名前の変更
	copy	コピー
	modify	フローの保存、パラメータの変更
SCT	create	新規作成
	delete	削除
	move	移動
SCH	create	新規作成
	delete	削除
	modify	ルールの編集、JNWの関連付け
SCHCTRL	create	新規作成
	regist	スケジュールをグループへ所属
	rename	名前の変更
	delete	削除
	on sched	スケジュールを有効化
	on group	スケジュールグループを有効化
	off sched	スケジュールを無効化
	off group	スケジュールグループを無効化
	move sched	スケジュールを移動
	move group	スケジュールグループを移動
	comment set	コメントの設定
CAL	create	新規作成
	delete	削除
	modify	ルールの編集
TRK	skip	スキップ
	noskip	スキップ解除
	hold	保留
	release	保留解除
	suspend	サスペンド
	resume	サスペンド解除
	estop	強制停止
	forcestart	強制起動
	rerun	再実行
	restart	リスタート
	freecontrol	コントロール解除
	start_immediate	実行(immediate)
	start_asap	実行(ASAP)
	ok	ダイアログ部品をOK
	error	ダイアログ部品をエラー
	modify	待ち合わせ時刻修正
	statusdone	異常終了、警告終了している部品を正常終了扱いに変更
	archive	トラックを手動でアーカイブ化

UCONF	modify	ユーザ環境設定を変更
	defmodify	デフォルトパラメータを変更
SCONF	modify	システム環境設定を変更
	addmac	マシングループに追加
	deletemac	マシングループから削除
MCONF	modify	パーミッション設定を変更
CMD		※拡張情報(サブコマンド名およびパラメータなど)が出力される。
JPF	upload	JPFファイルをアップロード
	download	JPFファイルをダウンロード

JobCenter CL/Win画面上の実際の操作と、Operationフィールドの出力結果の具体的な関連については7章「[画面上の操作と操作ログの対応](#)」を参照してください。

4.2. 実行ログ

実行ログはジョブネットワークの開始・終了に対してログを出力します。ジョブネットワークの1回の開始・終了に対して1行分が、下記のとおり7つのフィールドから構成され、カンマ(,)で区切られたフォーマットで出力されます。

```
<LocalTime>,<UserName>,<TrackerName>,<EventType>,<EndStatus>,<StartTime>,<EndTime>
```

例として、

■開始時刻：2007年1月1日 10時30分30秒000ミリ秒 (JST)

■ジョブネットワーク実行ユーザ：testuser

■ジョブネットワーク名：testjnw

のジョブネットワークが開始した場合、実行ログには次のように出力されます。

```
2007/01/01 10:30:30.000(JST),testuser,testjnw.20070101013030,JNWSTART,-,2007/01/01
10:30:30.000(JST),-
```

このジョブネットワークが

■終了時刻：2007年1月1日 13時00分00秒000ミリ秒 (JST)

■終了状態：正常終了

の状態を終了した場合、実行ログには次のように出力されます。

```
2007/01/01 13:00:00.000(JST),testuser,testjnw.20070101013030,JNWEEND,DONE,2007/01/01
10:30:30.000(JST),2007/01/01 13:00:00.000(JST)
```

以下、各フィールドに関して説明します。

4.2.1. LocalTimeフィールド

ジョブネットワークが開始・終了した日時が出力されます。

ジョブネットワーク投入元マシンのローカルタイムが出力されます。フォーマットに関する詳細は、操作ログのLocalTimeフィールドと同様です。

4.2.2. UserNameフィールド

実行されたジョブネットワークの所有者ユーザ名が出力されます。

たとえばユーザAがユーザBのジョブネットワークの実行権限を持つとき、ユーザAがユーザBのユーザフレームからジョブネットワークを実行した場合、UserNameフィールドにはジョブネットワークの所有者である [ユーザB] が出力されます。

4.2.3. TrackerNameフィールド

実行されたジョブネットワークのトラッカIDが出力されます。

トラッカIDは、ジョブネットワーク名と開始時刻が

```
JNW名.YYYYMMDDhhmmss
```

の形式で出力されます。このとき時刻部分(YYYYMMDDhhmmss)にはJNW実行サーバのローカルタイムがGMT(日本標準時-9時間)で出力されます。

例として、

■開始時刻：2007年1月1日 10時30分30秒000ミリ秒 (JST)

■ジョブネットワーク名：testjnw

の場合は

```
testjnw.20070101013030
```

が出力されます。

4.2.4. EventTypeフィールド

ジョブネットワークの状態が出力されます。

それぞれの意味は以下のとおりです。

表4.4 ジョブネットワーク状態とEventTypeフィールドの対応

JNWSTART	ジョブネットワークの開始時です
JNWEND	ジョブネットワークの終了時です

4.2.5. EndStatusフィールド

ジョブネットワークの終了状態が出力されます。

ジョブネットワーク開始時は、このフィールドにはハイフン(-)が出力されます。

EndStatusフィールド値の意味は以下のとおりです。

表4.5 ジョブネットワーク終了状態とEndStatusフィールドの対応

DONE	正常終了
WDONE	警告終了
EDONE	異常終了

4.2.6. StartTimeフィールド

ジョブネットワークが開始した日時が出力されます。

ミリ秒部分には常に「000」が表示されます。

4.2.7. EndTimeフィールド

ジョブネットワークが終了した日時が出力されます。

ミリ秒部分には常に「000」が表示されます。

ジョブネットワーク開始時は、このフィールドにはハイフン(-)が出力されます。

4.2.8. 親子関係のあるジョブネットワーク実行時の実行ログ出力

ジョブネットワーク中にサブジョブネットワークとして含まれているジョブネットワークの開始・終了時も、1つのジョブネットワークの開始・終了として実行ログが出力されます。

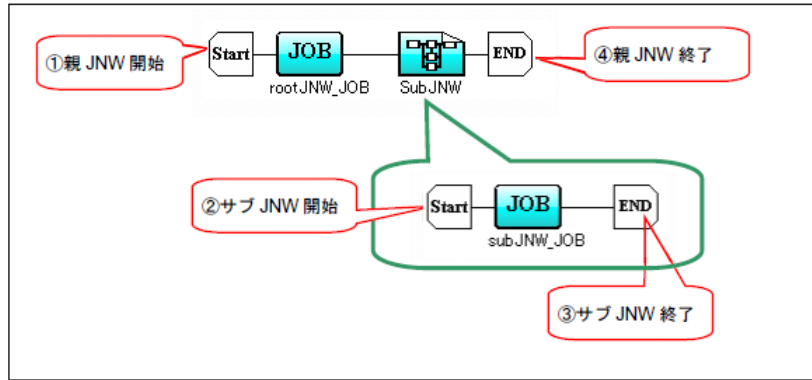


図4.1 親子関係を持つジョブネットワーク

図4.1「親子関係を持つジョブネットワーク」の例では、親ジョブネットワークrootJNWはサブジョブネットワークsubJNWを持っています。ジョブネットワークが実行開始すると、

1. 親ジョブネットワークの開始
2. サブジョブネットワークの開始
3. サブジョブネットワークの終了
4. 親ジョブネットワークの終了

の順番で実行されます。このとき実行ログは次のよう出力されます。

```

... ,rootJNW.20070101013030,JNWSTART,-, ...
... ,rootJNW:subJNW.20070101013030,JNWSTART,-, ...
... ,rootJNW:subJNW.20070101013030,JNWEND,DONE, ...
... ,rootJNW.20070101013030,JNWEND,DONE, ...
    
```

第5章 注意事項・制限事項

本章では、操作・実行ログ機能をご利用になるに当たって、注意していただく事項、について説明します。

5.1. 文字コードに関する注意事項

UNIX版JobCenterでは、操作ログ・実行ログの文字コードにはセットアップ時(nssetupコマンド実行時)に指定した文字コードが使用されます。

Windows版JobCenterでは文字コードとしてSJIS(シフトJIS)が使用されます。

5.2. TZシステム環境変数に関する注意事項 (Windows版)

Windows版JobCenterでは、操作ログ・実行ログに出力される時刻のタイムゾーン部分は「(東京(標準時))」と表示されます。この部分に「(JST)」と表示させるには、システム環境変数に

変数名	TZ
値	JST-9

を設定する必要があります。

システム環境変数の追加を反映させるにはWindowsの再起動が必要です。

5.3. マシングループ構成時の注意事項

マシングループを構成している場合、各メンバマシンの操作ログ・実行ログの設定はスケジューラマシンの設定と同じになります。各メンバマシン個別には設定できません。

設定変更を行う場合は、スケジューラマシンの「システム環境設定」ダイアログ（「操作・実行ログ」タブ）から行ってください。

第6章 過去バージョンとの差異

本章は、操作ログフォーマットに関する過去バージョンとの差異を記載します。

6.1. R13.1での変更点

R13.1では、それ以前のバージョンと比べて操作ログに出力される操作の種類は増えておりません。

表6.1 R13.1の全操作ログの種類

TargetType	Operation	実際の操作	R13.1以降
USER	login	ログイン	
	logout	ログアウト	
GRP	create	新規作成	
	delete	強制削除	
	rename	名前の変更	
	copy	コピー	
	move	移動、通常削除	
JNW	create	新規作成	
	delete	削除	
	submit	即時投入	
	rename	名前の変更	
	copy	コピー	
	modify	フローの保存、パラメータの変更	
SCT	create	新規作成	
	delete	削除	
	move	移動	
SCH	create	新規作成	
	delete	削除	
	rename	名前の変更	
	modify	ルールの編集、JNWの関連付け	
SCHCTRL	create	新規作成	
	regist	スケジュールをグループへ所属	
	rename	名前の変更	
	delete	削除	
	on sched	スケジュールを有効化	
	on group	スケジュールグループを有効化	
	off sched	スケジュールを無効化	
	off group	スケジュールグループを無効化	
	move sched	スケジュールを移動	
	move group	スケジュールグループを移動	
	comment set	コメントの設定	
CAL	create	新規作成	
	delete	削除	
	rename	名前の変更	
	modify	ルールの編集	
TRK	skip	スキップ	

	noskip	スキップ解除	
	hold	保留	
	release	保留解除	
	suspend	サスペンド	
	resume	サスペンド解除	
	estop	強制停止	
	forstart	強制起動	
	rerun	再実行	
	restart	リスタート	
	freecontrol	コントロール解除	
	start_immediate	実行(immediate)	
	start_asap	実行(ASAP)	
	ok	ダイアログ部品をOK	
	error	ダイアログ部品をエラー	
	modify	待ち合わせ時刻修正	
	statusdone	異常終了、警告終了している部品を正常終了扱いに変更	
	archive	トラックを手動でアーカイブ化	
UCONF	modify	ユーザ環境設定を変更	
	defmodify	デフォルトパラメータを変更	
SCONF	modify	システム環境設定を変更	
	addmac	マシングループに追加	
	deletemac	マシングループから削除	
MCONF	modify	パーミッション設定を変更	
CMD		※拡張情報(サブコマンド名およびパラメータなど)が出力される。	
JPF	upload	JPFのアップロード	
	download	JPFのダウンロード	

6.2. R12.10での変更点

R12.10では、それ以前のバージョンと比べて操作ログに出力される操作の種類が増えています。R12.10以降で出力されるようになった操作ログは[表6.2「R12.10の全操作ログの種類」](#)のとおりです。

表6.2 R12.10の全操作ログの種類

TargetType	Operation	実際の操作	R12.10以降
USER	login	ログイン	
	logout	ログアウト	
GRP	create	新規作成	
	delete	強制削除	
	rename	名前の変更	
	copy	コピー	
	move	移動、通常削除	
JNW	create	新規作成	
	delete	削除	
	submit	即時投入	
	rename	名前の変更	
	copy	コピー	
	modify	フローの保存、パラメータの変更	
SCT	create	新規作成	
	delete	削除	
	move	移動	
SCH	create	新規作成	
	delete	削除	
	rename	名前の変更	
	modify	ルールの編集、JNWの関連付け	
SCHCTRL	create	新規作成	
	regist	スケジュールをグループへ所属	
	rename	名前の変更	
	delete	削除	
	on sched	スケジュールを有効化	
	on group	スケジュールグループを有効化	
	off sched	スケジュールを無効化	
	off group	スケジュールグループを無効化	
	move sched	スケジュールを移動	
	move group	スケジュールグループを移動	
	comment set	コメントの設定	
CAL	create	新規作成	
	delete	削除	
	rename	名前の変更	
	modify	ルールの編集	

TRK	skip	スキップ	
	noskip	スキップ解除	
	hold	保留	
	release	保留解除	
	suspend	サスペンド	
	resume	サスペンド解除	
	estop	強制停止	
	forcestart	強制起動	
	rerun	再実行	
	restart	リスタート	
	freecontrol	コントロール解除	
	start_immediate	実行(immediate)	
	start_asap	実行(ASAP)	
	ok	ダイアログ部品をOK	
	error	ダイアログ部品をエラー	
	modify	待ち合わせ時刻修正	
	statusdone	異常終了、警告終了している部品を正常終了扱いに変更	
	archive	トラッカを手動でアーカイブ化	
UCONF	modify	ユーザ環境設定を変更	
	defmodify	デフォルトパラメータを変更	
SCONF	modify	システム環境設定を変更	
	addmac	マシングループに追加	
	deletemac	マシングループから削除	
MCONF	modify	パーミッション設定を変更	
CMD		※拡張情報(サブコマンド名およびパラメータなど)が出力される。	○
JPF	upload	JPFのアップロード	○
	download	JPFのダウンロード	○

6.3. R12.9での変更点

R12.9では、それ以前のバージョンと比べて操作ログに出力される操作の種類が増えています。R12.9以降で出力されるようになった操作ログは表6.3「R12.9の全操作ログの種類」のとおりです。

表6.3 R12.9の全操作ログの種類

TargetType	Operation	実際の操作	R12.9以降
USER	login	ログイン	
	logout	ログアウト	
GRP	create	新規作成	
	delete	強制削除	
	rename	名前の変更	
	copy	コピー	
	move	移動、通常削除	
JNW	create	新規作成	
	delete	削除	
	submit	即時投入	
	rename	名前の変更	
	copy	コピー	
	modify	フローの保存、パラメータの変更	
SCT	create	新規作成	
	delete	削除	
	move	移動	
SCH	create	新規作成	
	delete	削除	
	rename	名前の変更	○
	modify	ルールの編集、JNWの関連付け	
SCHCTRL	create	新規作成	○
	regist	スケジュールをグループへ所属	○
	rename	名前の変更	○
	delete	削除	○
	on sched	スケジュールを有効化	○
	on group	スケジュールグループを有効化	○
	off sched	スケジュールを無効化	○
	off group	スケジュールグループを無効化	○
	move sched	スケジュールを移動	○
	move group	スケジュールグループを移動	○
	comment set	コメントの設定	○
CAL	create	新規作成	
	delete	削除	
	rename	名前の変更	○
	modify	ルールの編集	

TRK	skip	スキップ	
	noskip	スキップ解除	
	hold	保留	
	release	保留解除	
	suspend	サスペンド	
	resume	サスペンド解除	
	estop	強制停止	
	forcestart	強制起動	
	rerun	再実行	
	restart	リスタート	
	freecontrol	コントロール解除	
	start_immediate	実行(immediate)	
	start_asap	実行(ASAP)	
	ok	ダイアログ部品をOK	
	error	ダイアログ部品をエラー	
	modify	待ち合わせ時刻修正	
	statusdone	異常終了、警告終了している部品を正常終了扱いに変更	○
	archive	トラッカを手動でアーカイブ化	○
UCONF	modify	ユーザ環境設定を変更	
	defmodify	デフォルトパラメータを変更	
SCONF	modify	システム環境設定を変更	
	addmac	マシングループに追加	
	deletemac	マシングループから削除	
MCONF	modify	パーミッション設定を変更	

6.4. R12.8での変更点

R12.8では、それ以前のバージョンと比べて操作ログに出力される操作の種類が増えています。R12.8以降で出力されるようになった操作ログは表6.4「R12.8の全操作ログの種類」のとおりです。

表6.4 R12.8の全操作ログの種類

TargetType	Operation	実際の操作	R12.8以降
USER	login	ログイン	○
	logout	ログアウト	○
GRP	create	新規作成	○
	delete	強制削除	○
	rename	名前の変更	○
	copy	コピー	○
	move	移動、通常削除	○
JNW	create	新規作成	
	delete	削除	
	submit	即時投入	
	rename	名前の変更	○
	copy	コピー	○
	modify	フローの保存、パラメータの変更	
SCT	create	新規作成	○
	delete	削除	○
	move	移動	○
SCH	create	新規作成	
	delete	削除	
	modify	ルールの編集、JNWの関連付け	
CAL	create	新規作成	
	delete	削除	
	modify	ルールの編集	
TRK	skip	スキップ	
	noskip	スキップ解除	
	hold	保留	
	release	保留解除	
	suspend	サスペンド	
	resume	サスペンド解除	
	estop	強制停止	
	forcestart	強制起動	
	rerun	再実行	
	restart	リスタート	
	freecontrol	コントロール解除	
	start_immediate	実行(immediate)	
	start_asap	実行(ASAP)	

	ok	ダイアログ部品をOK	
	error	ダイアログ部品をエラー	
	modify	待ち合わせ時刻修正	
UCONF	modify	ユーザ環境設定を変更	
	defmodify	デフォルトパラメータを変更	○
SCONF	modify	システム環境設定を変更	
	addmac	マシングループに追加	○
	deletemac	マシングループから削除	○
MCONF	modify	パーミッション設定を変更	○

6.5. R12.6での変更点

6.5.1. TargetNameフィールドに関する差異

R12.5.4以降のR12.5.xベースのJobCenterでは、ジョブネットワーク中あるいはトラッカフロー中の部品を操作したとき、操作ログのTargetNameフィールドに部品の属するジョブネットワーク名のみが出力されます。

R12.6以降では操作した部品の種類に応じて、部品名もしくはジョブネットワークのトラッカIDをTargetNameフィールドの文字列に付加します。

操作ごとの差異は[表6.5「操作内容とTargetNameフィールドの関連」](#)のとおりです。

表6.5 操作内容とTargetNameフィールドの関連

操 作		R12.6以前	R12.6以降
JNWのトラッカを操作		JNW名	JNW 名.YYYYYMMDDhhmmss
フロー中の部品を修正 (単位ジョブ、R/3ジョブ、BWジョブ、ダイアログ、イベント送信、イベント受信)			JNW名/部品名
フロー中の部品を修正 (コンティニュー、ジョブ待ち合わせ、ジョブネットワーク待ち合わせ、時刻待ち合わせ、ファイル待ち合わせ)			JNW名
トラッカフロー中の部品を操作	待ち合わせ部品、コンティニュー部品以外		JNW 名.YYYYYMMDDhhmmss/ 部品名
	待ち合わせ部品		JNW 名.YYYYYMMDDhhmmss
	コンティニュー部品		JNW 名.YYYYYMMDDhhmmss

6.5.2. Operationフィールドに関する差異

R12.5.4以降のR12.5.xベースのJobCenterでは、トラッカ中の部品を操作したときに操作ログのOperationフィールドに一律に“modify”が出力されます。

R12.6以降ではこの代わりに、部品に対して実行された操作に応じた文字列が出力されるようになりました。操作内容とOperationフィールドに出力される文字列の一覧は[表6.6「操作内容とOperationフィールドの関連」](#)のとおりです。

各部品に対して実行可能な操作の一覧は[表6.7「部品別の実行可能操作一覧\(1\)」](#)、[表6.8「部品別の実行可能操作一覧\(2\)」](#)のとおりです。

表6.6 操作内容とOperationフィールドの関連

操 作		R12.6以前	R12.6以降
部品のトラッカを操作	スキップ	modify	skip
	スキップ解除		noskip
	保留		hold
	保留解除		release

	サスペンド		suspend
	サスペンド解除		resume
	強制停止		estop
	強制起動		forcestart
	再実行		rerun
	リスタート		restart
	コントロール解除		freecontrol
	実行(immediate)		start_immediate
	実行(ASAP)		start_asap
	ok		ok
	error		error
	待ち合わせ時刻修正		modify

表6.7 部品別の実行可能操作一覧(1)

操 作	単位ジョブ	R/3ジョブ	BWジョブ	サブJNW	ダイアログ	イベント送信	イベント受信
スキップ	○	○	○	○	○	○	○
スキップ解除	○	○	○	○	○	○	○
保留	○	○	○	○	—	○	○
保留解除	○	○	○	○	—	○	○
強制起動	○	○	○	○	—	○	○
再実行	○	○	○	○	○	○	○
強制停止	○	—	○	○	—	○	○
リスタート	○	—	—	—	—	—	—
コントロール解除	○	—	—	—	—	—	—
サスペンド	○	—	—	—	—	—	—
サスペンド解除	○	—	—	—	—	—	—
実行(immediate)	—	○	—	—	—	—	—
実行(ASAP)	—	○	—	—	—	—	—
ok	—	—	—	—	○	—	—
error	—	—	—	—	○	—	—
待ち合わせ時刻修正	—	—	—	—	—	—	—

表6.8 部品別の実行可能操作一覧(2)

操 作	イベント送信	コンティニュー	ジョブ待ち合わせ	ジョブネットワーク待ち合わせ	ファイル待ち合わせ	時刻待ち合わせ
スキップ	○	—	○	○	○	○
スキップ解除	○	—	○	○	○	○

過去バージョンとの差異

保留	○	○	－	－	－	－
保留解除	○	○	－	－	－	－
強制起動	○	－	－	－	－	－
再実行	○	－	－	－	－	－
強制停止	○	－	－	－	－	－
リスタート	－	－	－	－	－	－
コントロール解除	－	－	－	－	－	－
サスペンド	－	－	－	－	－	－
サスペンド解除	－	－	－	－	－	－
実行 (immediate)	－	－	－	－	－	－
実行(ASAP)	－	－	－	－	－	－
ok	－	－	－	－	－	－
error	－	－	－	－	－	－
待ち合わせ 時刻修正	－	－	－	－	－	○

第7章 画面上の操作と操作ログの対応

本章では、JobCenter CL/Winから実行可能な操作と操作ログの出力内容の対応について、一覧を示します。

CL/Winからの操作に対して、操作ログの

■TargetType

■TargetName

■Operation

の3つのフィールドに出力される内容を挙げています。

7.1. ユーザフレーム

ユーザフレームには機能ごとに「ジョブネットワーク一覧」「トラッカー一覧」「スケジュール一覧」「ユーザメニュー」「スケジュール表示」の5つのタブがあります。それらのうち「スケジュール表示」タブを除く4つのタブでの操作について操作ログが出力されます。

7.1.1. 「ジョブネットワーク一覧」タブ

「ジョブネットワーク一覧」タブでは、グループ、ジョブネットワーク、ショートカットに対しての操作を行った場合に操作ログが出力されます。

7.1.1.1. グループに対する操作

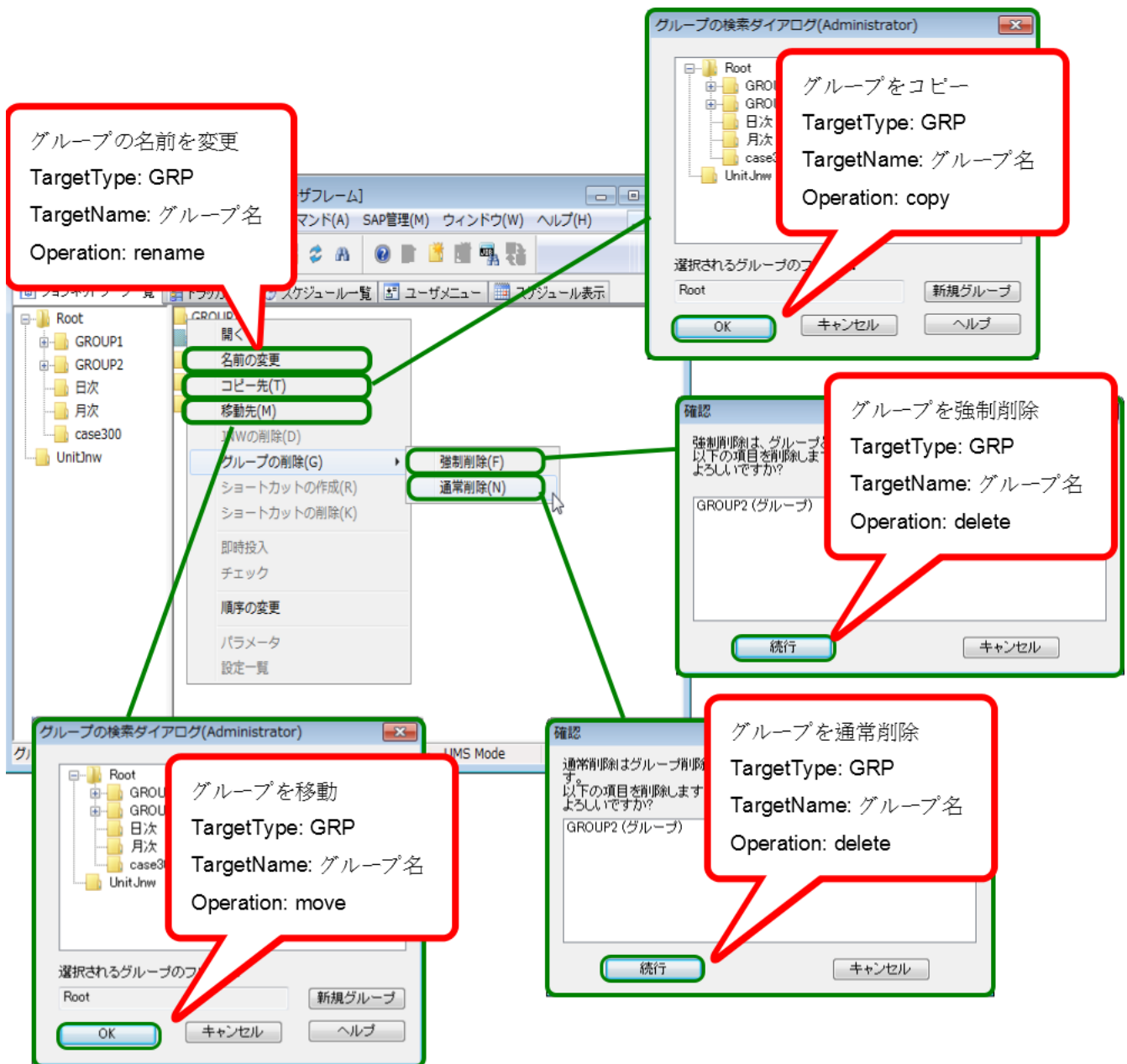


図7.1 グループに対する操作

7.1.1.2. ジョブネットワークに対する操作

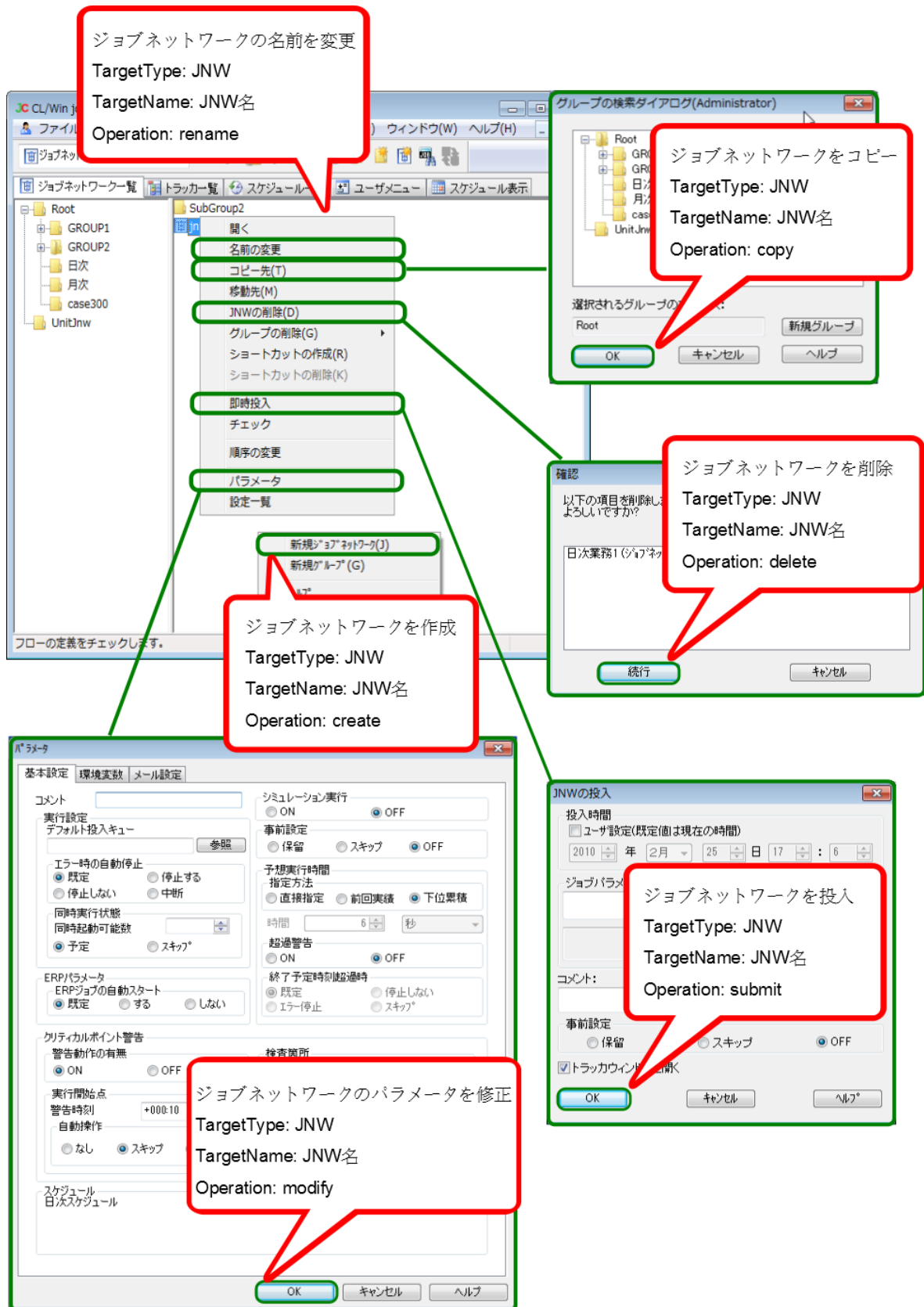


図7.2 ユーザフレーム上でのジョブネットワークに対する操作

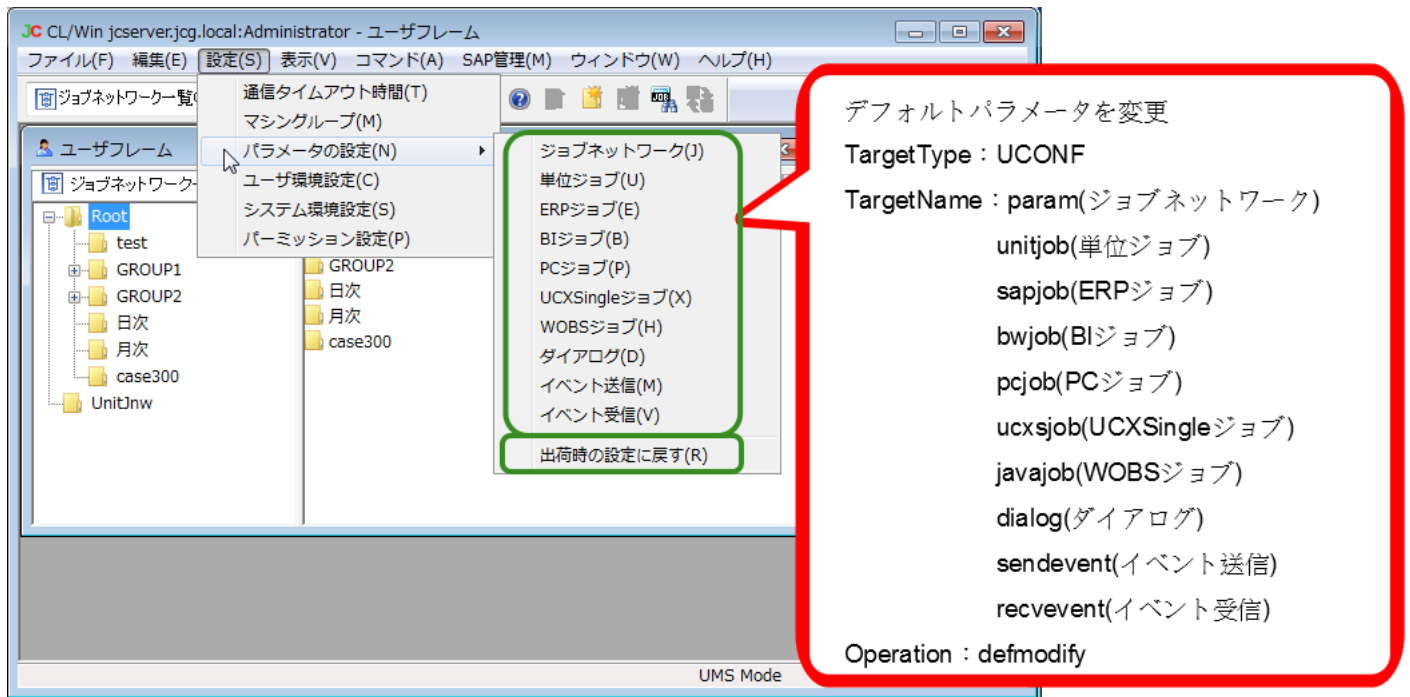
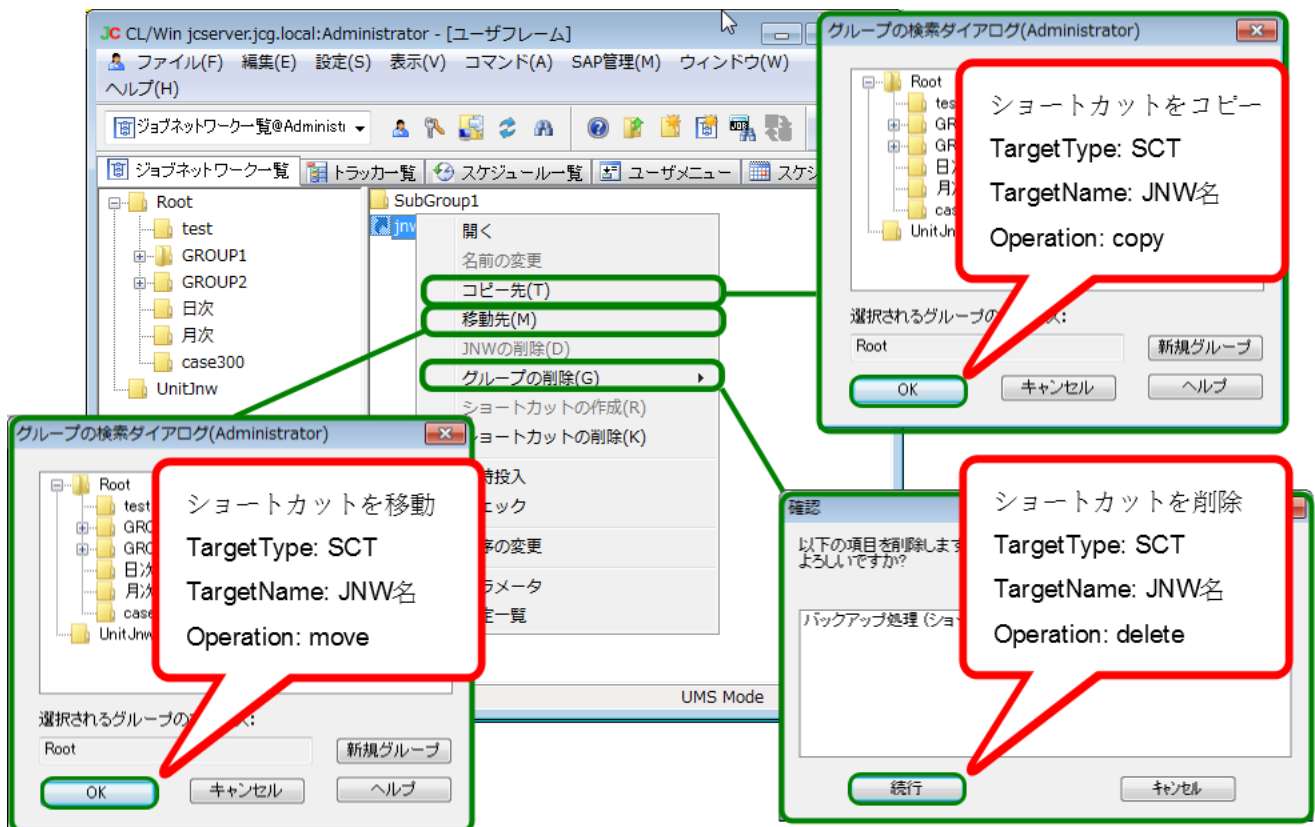
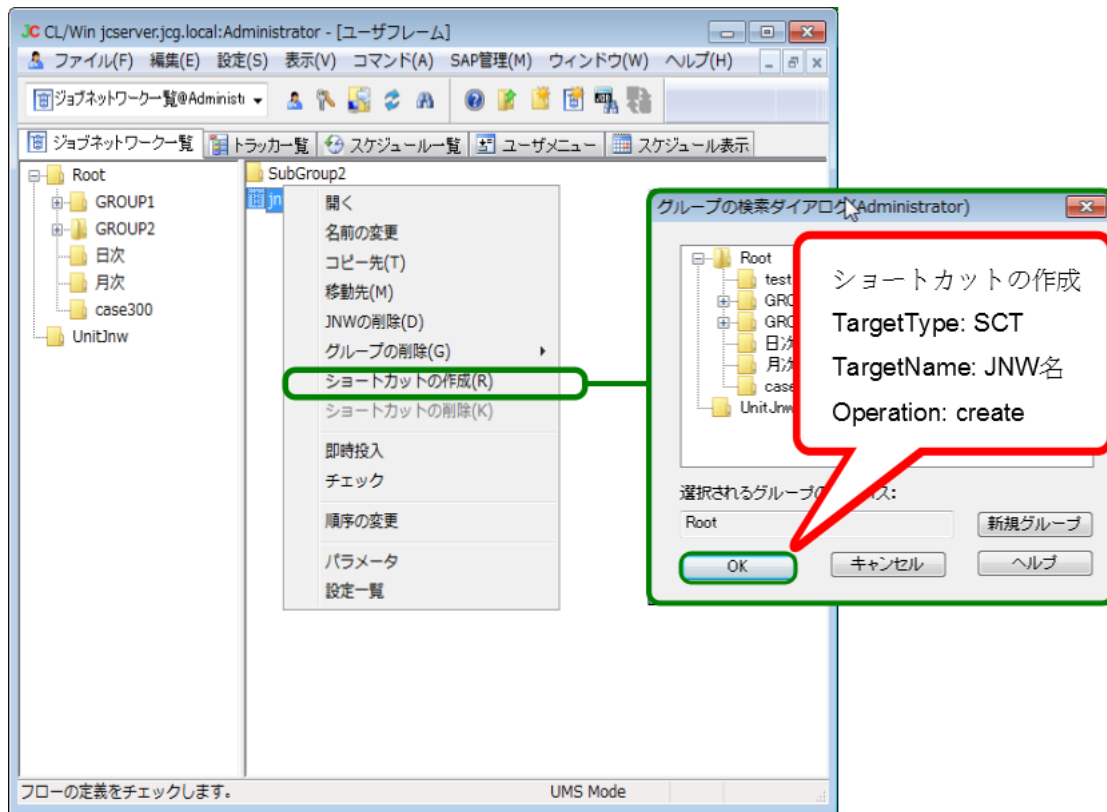


図7.3 デフォルトパラメータに対する操作



「規定値をロード」を選択した場合、全デフォルトパラメータが初期化されるため、操作ログにはTargetNameの全種類に対してデフォルトパラメータの変更を行ったように出力されます。

7.1.1.3. ショートカットに対する操作





ショートカットを別グループへコピーした場合、処理的には同じジョブネットワークのショートカットをそのグループに新規作成したのと同じであり、操作ログのOperationフィールドには「create」と出力されます。

7.1.2. [トラッカー一覧] タブ

[トラッカー一覧] タブでは、トラッカを右クリックして表示される各種操作、およびトラッカフローの各部品を右クリックして表示される各種操作を行った場合に、操作ログが出力されます。

7.1.2.1. ユーザフレーム上での操作－全トラッカ共通

トラッカを操作

TargetType : TRK

TargetName : JNW名.YYYYYMMDDhhmmss

Operation : skip(スキップ)

noskip(スキップ解除)

hold(保留)

release(保留解除)

estop(強制停止)

rerun(再実行)

delete(削除)

archive(アーカイブ)

図7.6 トラッカに対する操作（共通）

7.1.2.2. ユーザフレーム上での操作－「予定」トラッカ

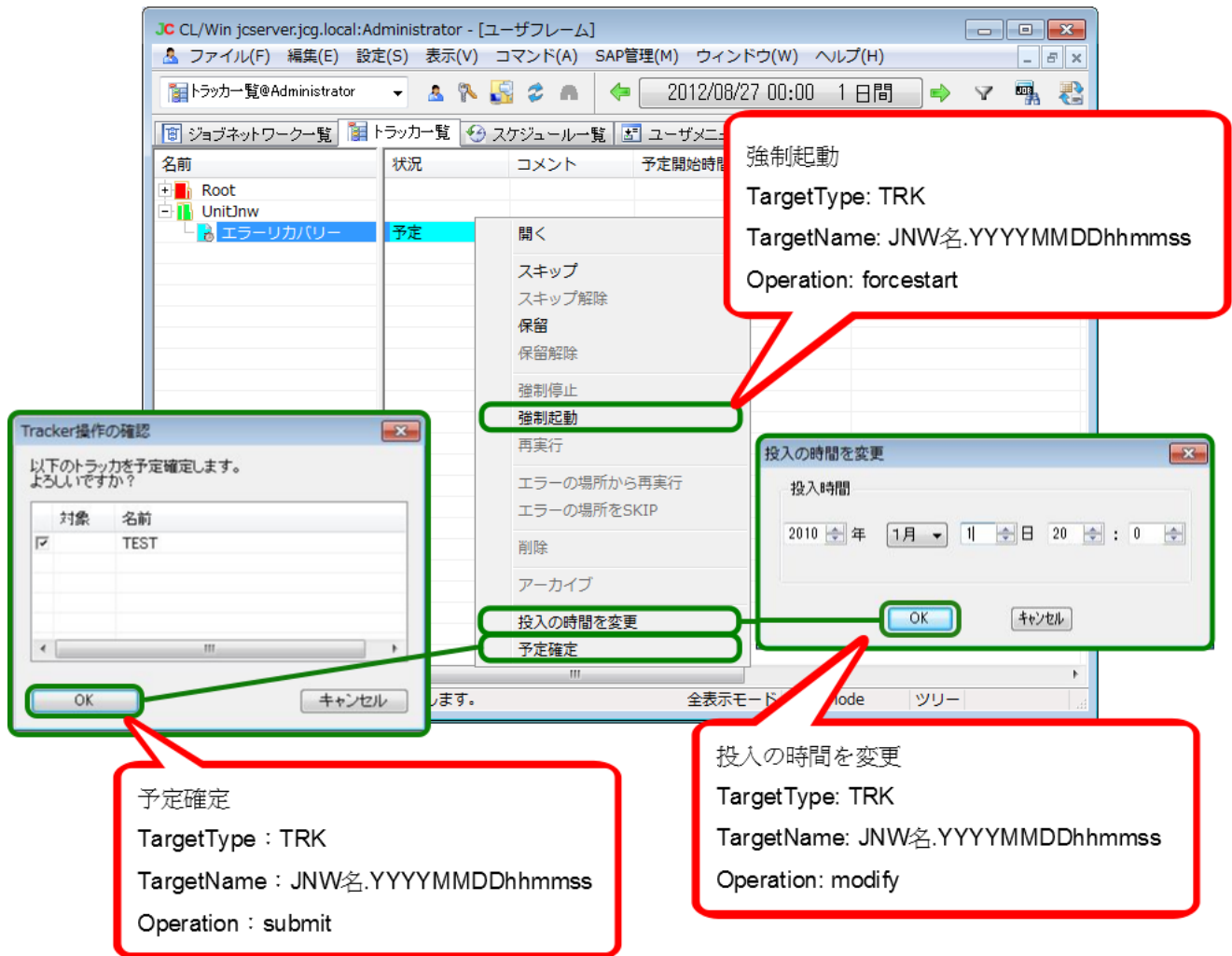
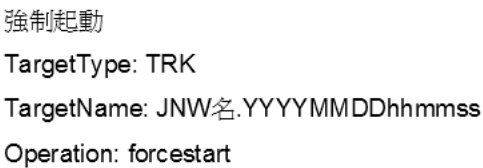


図7.7 予定トラッカに対する操作



投入の時間を変更
TargetType: TRK
TargetName: JNW名.YYYYMMDDhhmmss
Operation: modify

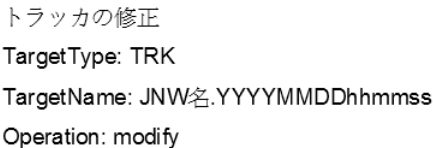


図7.9 予定、予定(確定)トラッカフローの修正

7.1.2.5. トラッカフロー中の部品の操作

7.1.2.5.1. 単位ジョブ

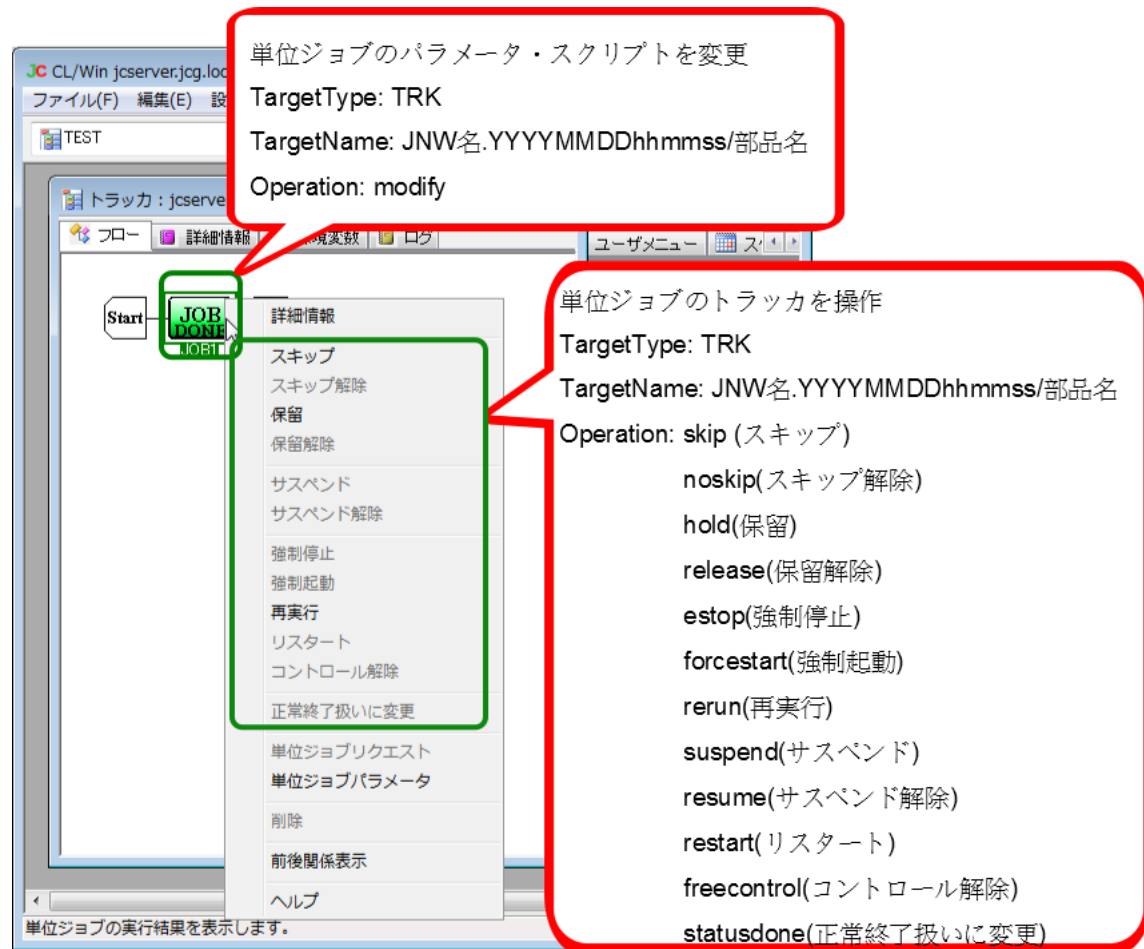


図7.10 単位ジョブトラッカに対する操作

7.1.2.5.2. ERPジョブ

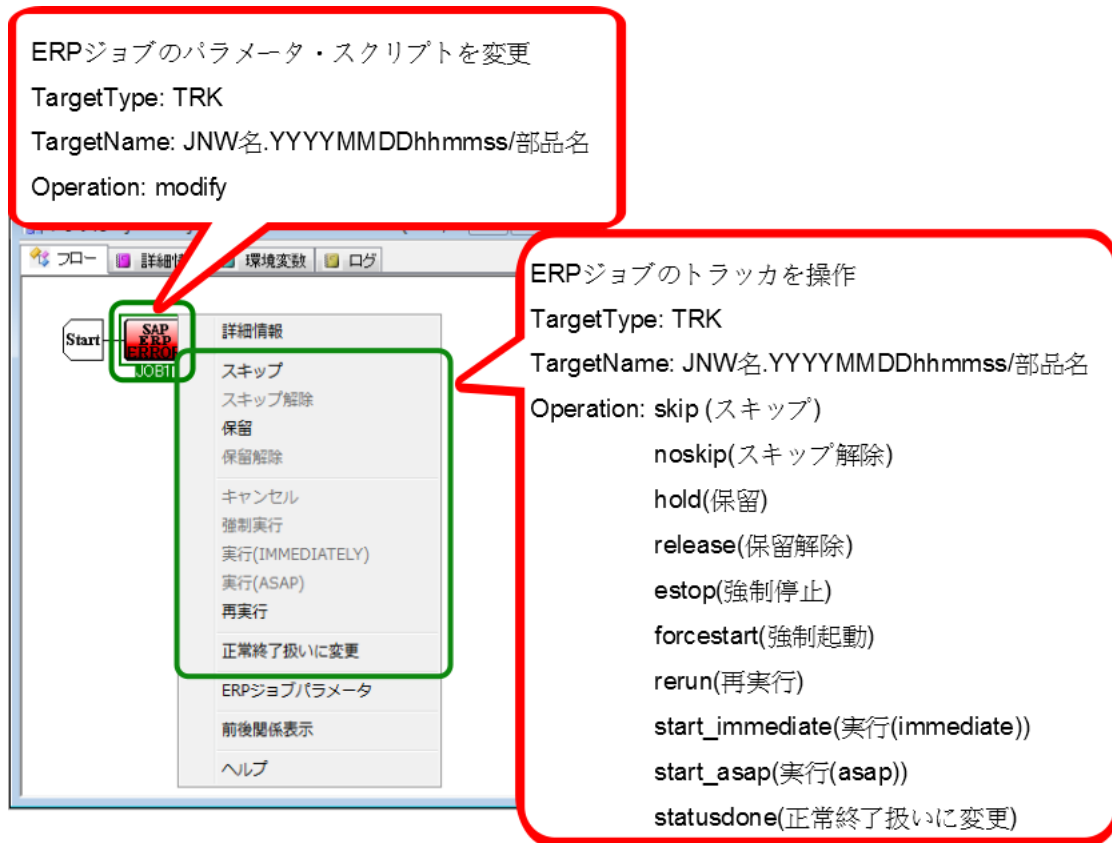


図7.11 ERPジョブトラッカに対する操作

7.1.2.5.3. BIジョブ

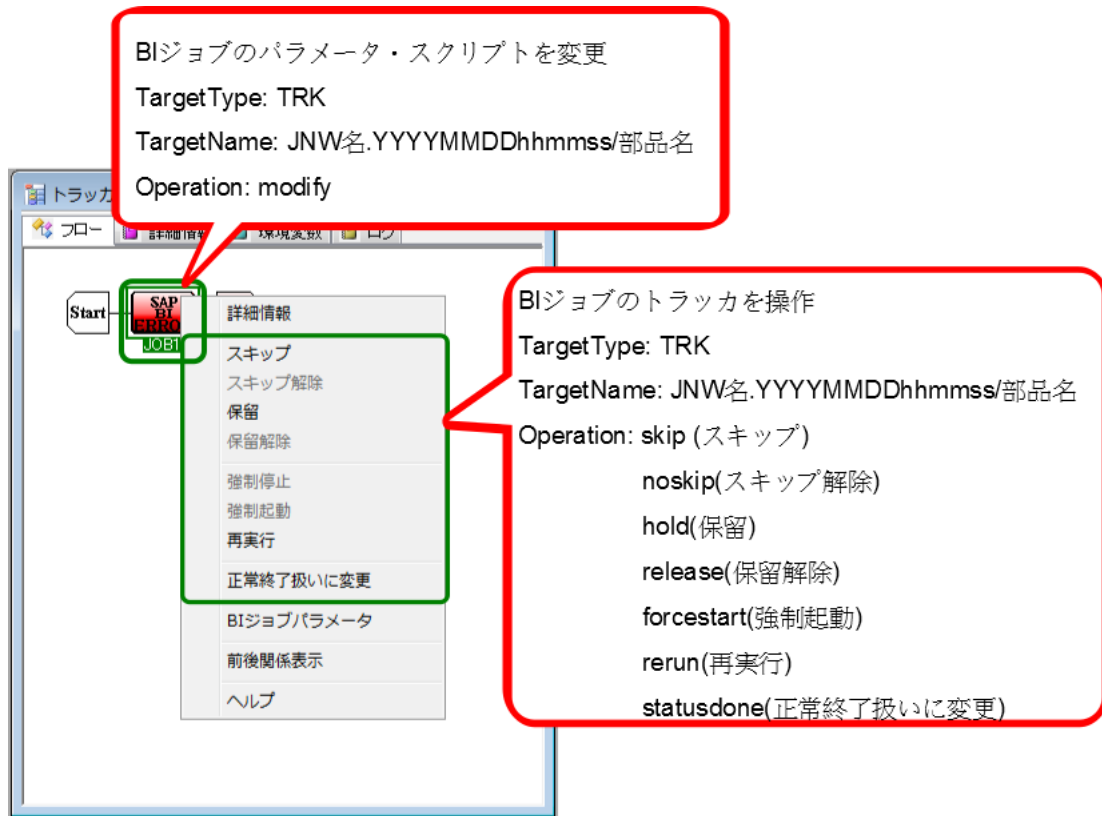


図7.12 BIジョブトラッカに対する操作

7.1.2.5.4. PCジョブ

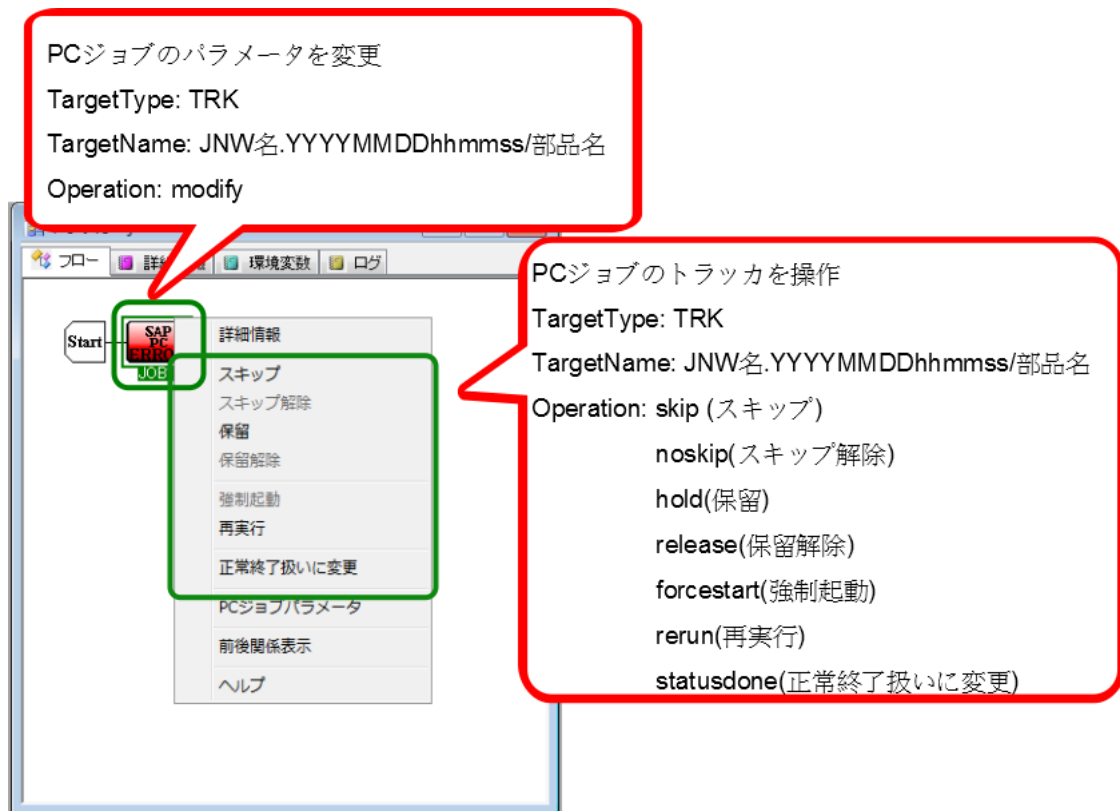


図7.13 PCジョブトラッカに対する操作

7.1.2.5.5. UCXSingleジョブ

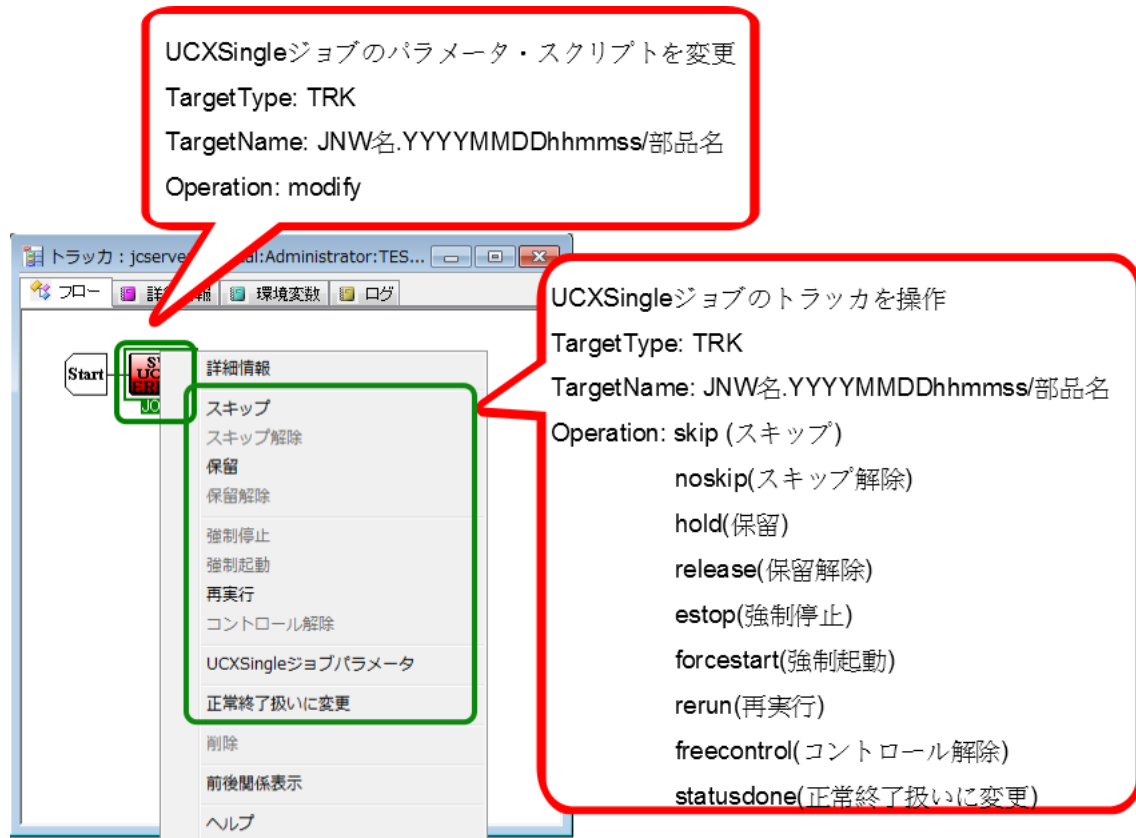


図7.14 UCXSingleジョブトラッカに対する操作

7.1.2.5.6. ダイアログ

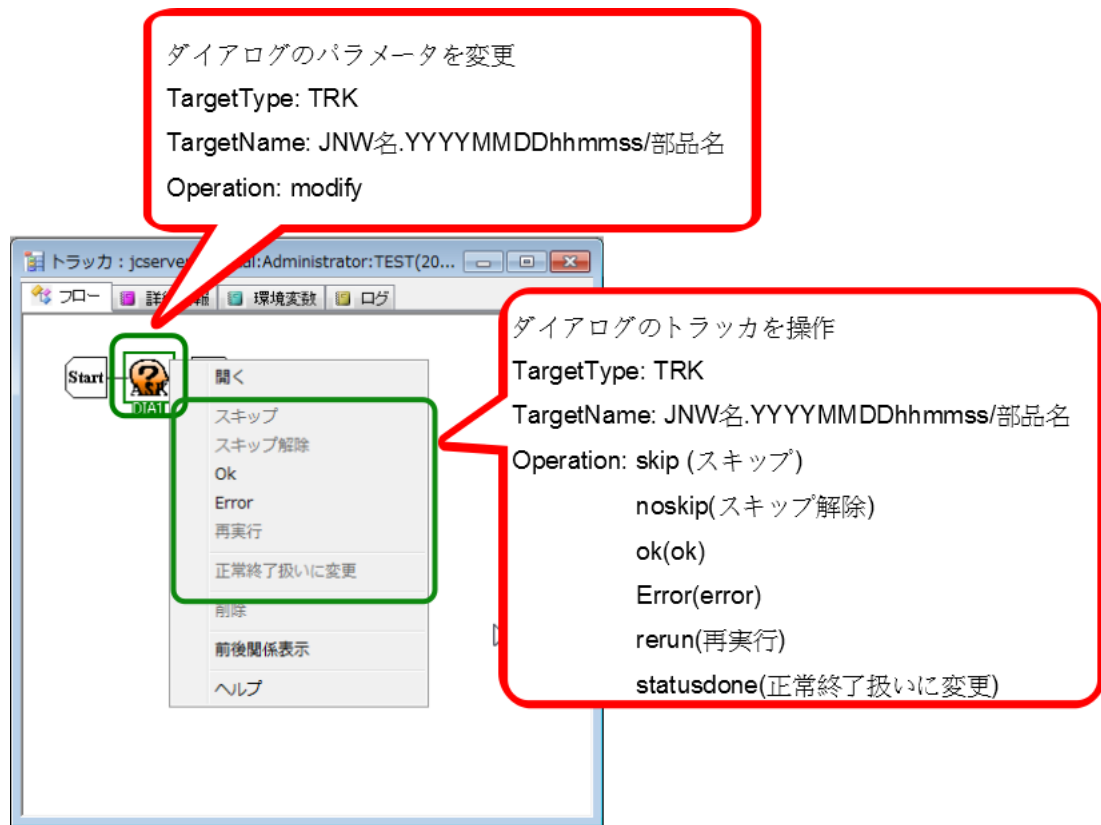


図7.15 ダイアログ部品トラッカに対する操作

7.1.2.5.7. コンティニュー

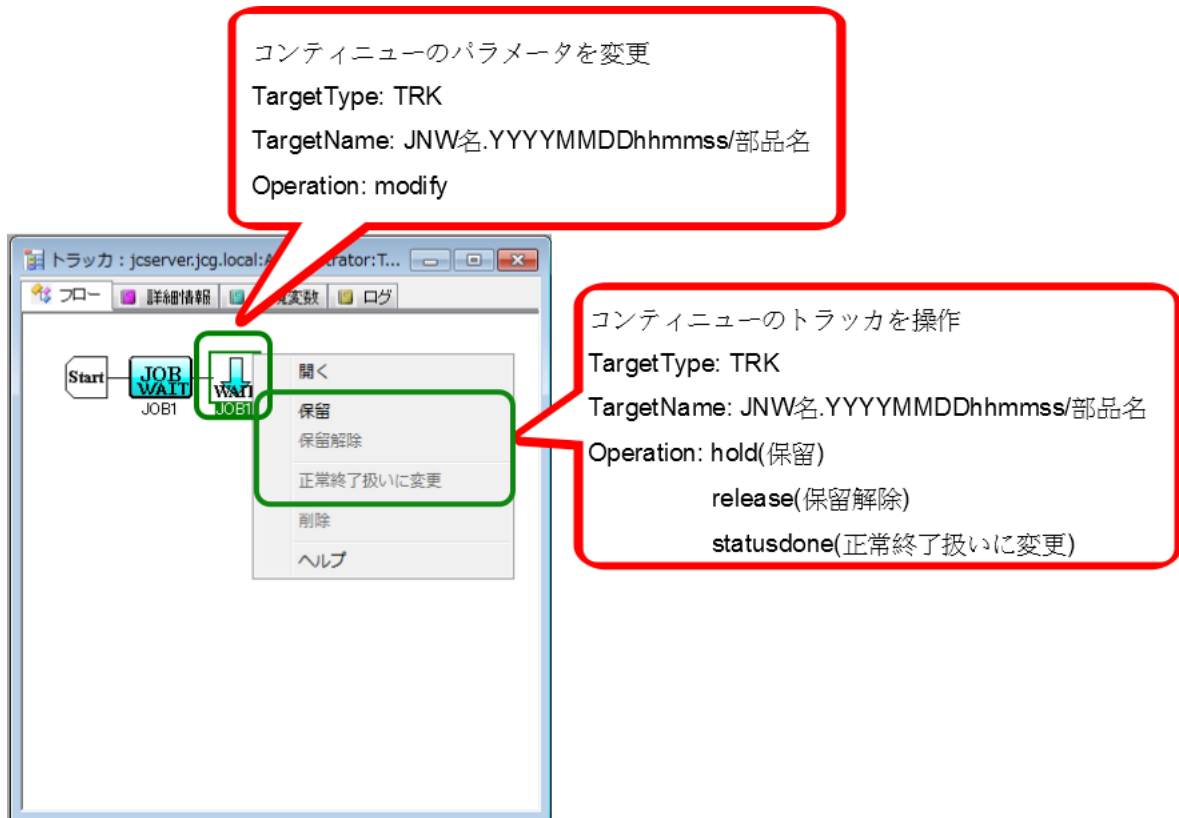


図7.16 コンティニュー部品トラックに対する操作

7.1.2.5.8. サブジョブネットワーク

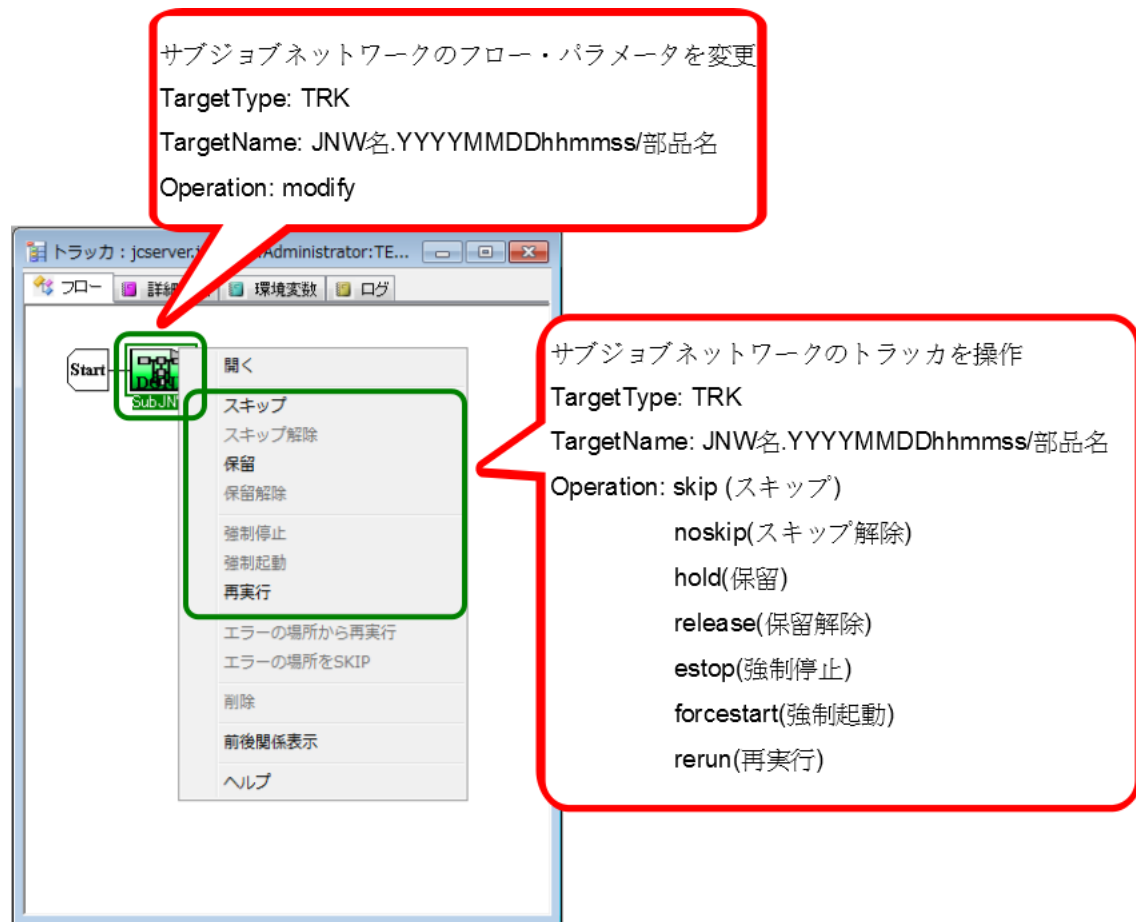


図7.17 サブジョブネットワークトラッカに対する操作

7.1.2.5.9. イベント送信

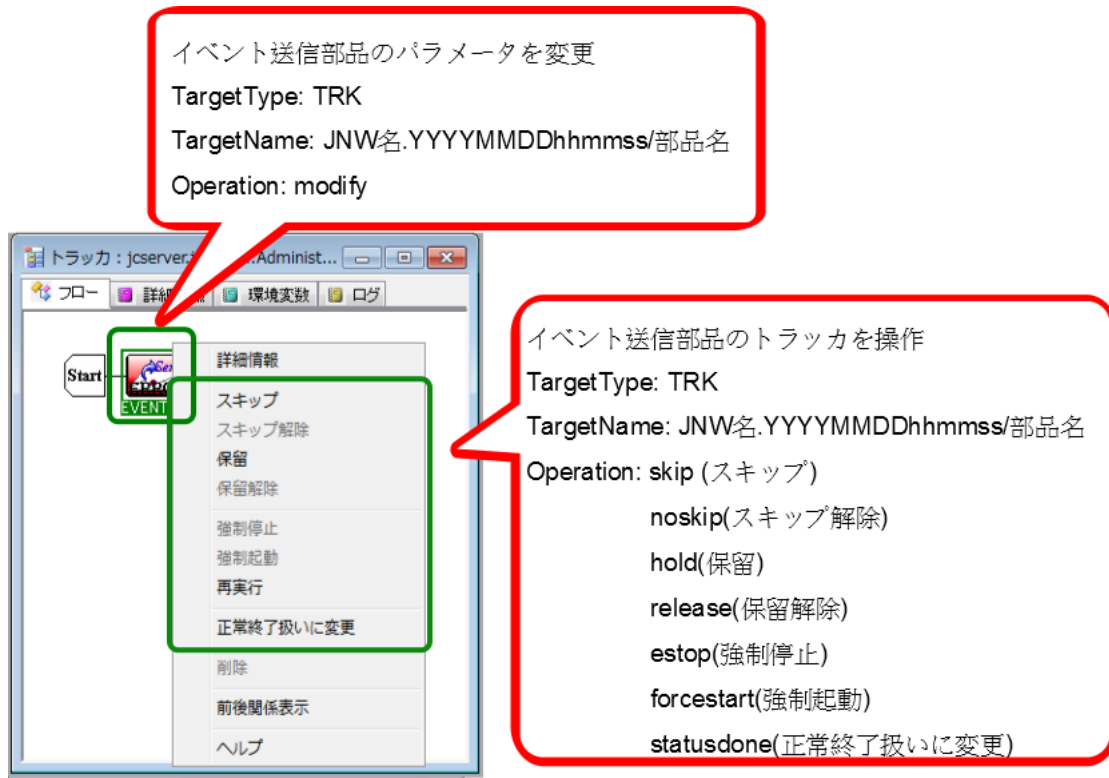


図7.18 イベント送信部品トラッカに対する操作

7.1.2.5.10. イベント受信

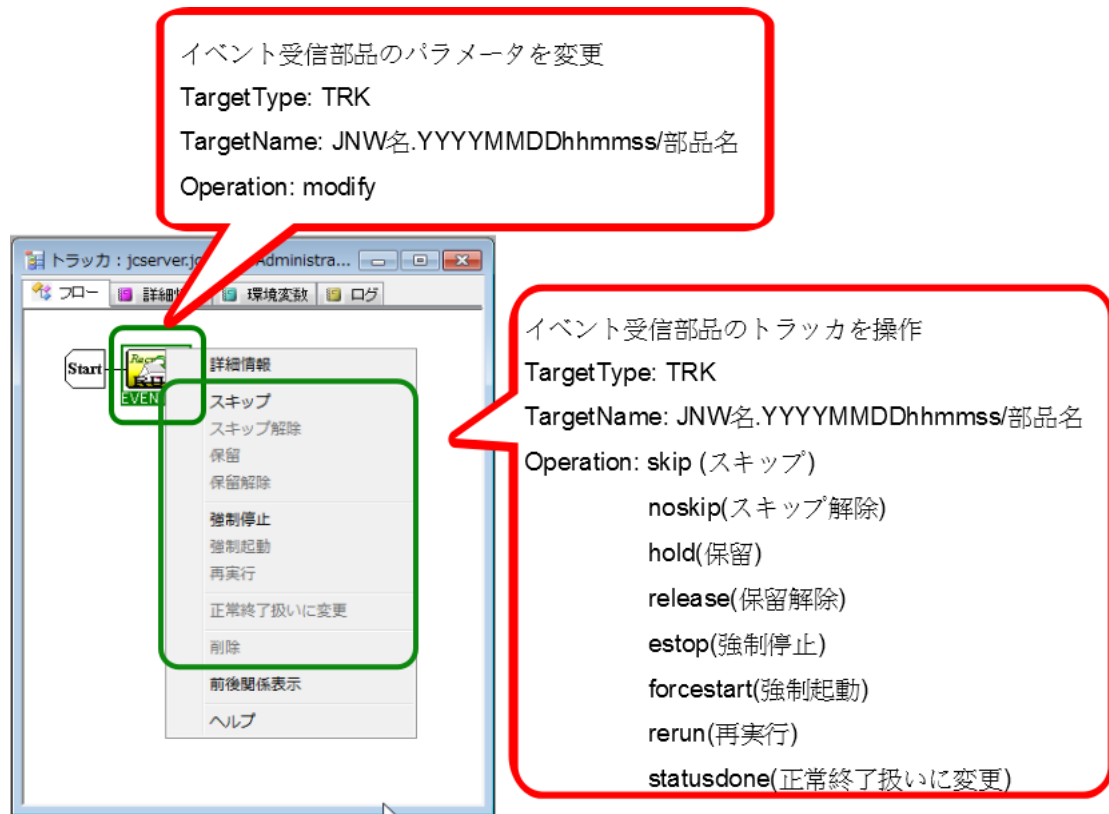


図7.19 イベント受信部品トラッカに対する操作

7.1.2.5.11. ジョブネットワーク待ち合わせ

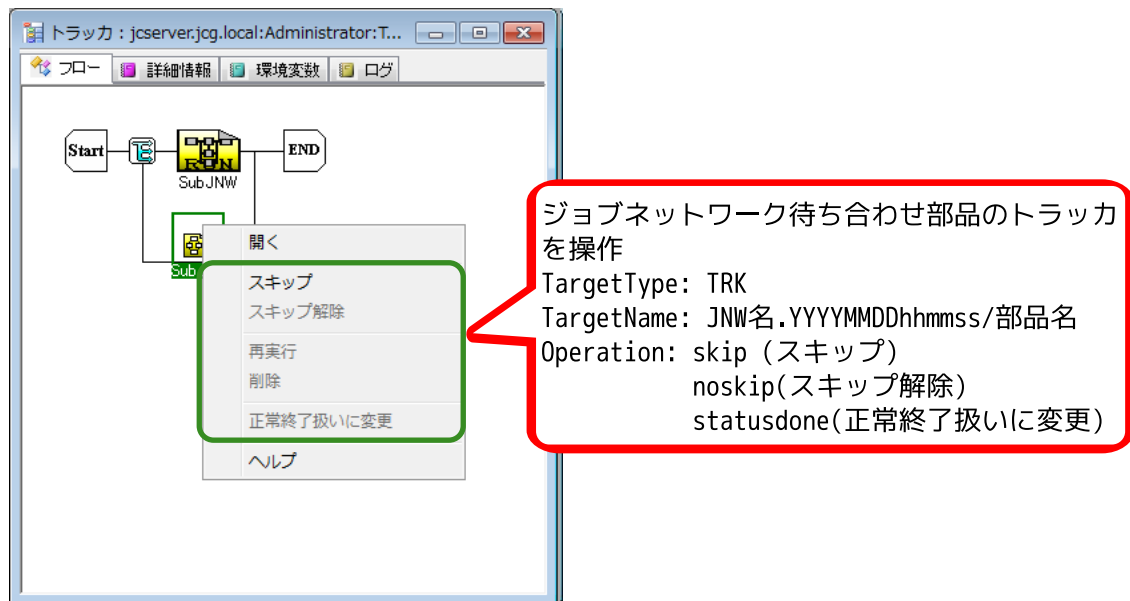


図7.20 ジョブネットワーク待ち合わせ部品トラッカに対する操作

7.1.2.5.12. ジョブ待ち合わせ

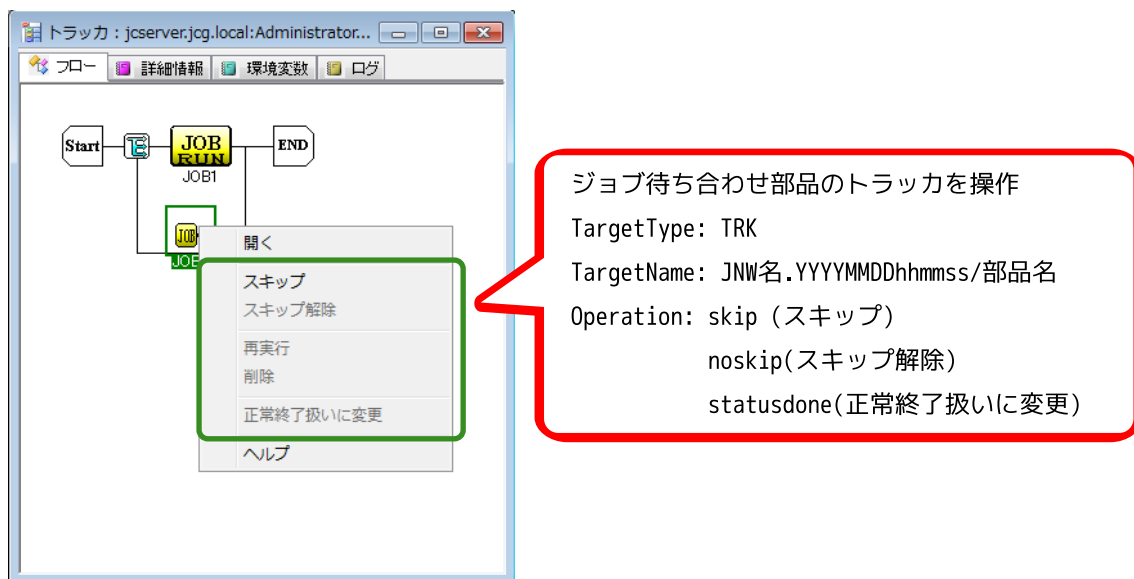


図7.21 ジョブ待ち合わせ部品トラッカに対する操作

7.1.2.5.13. ファイル待ち合わせ

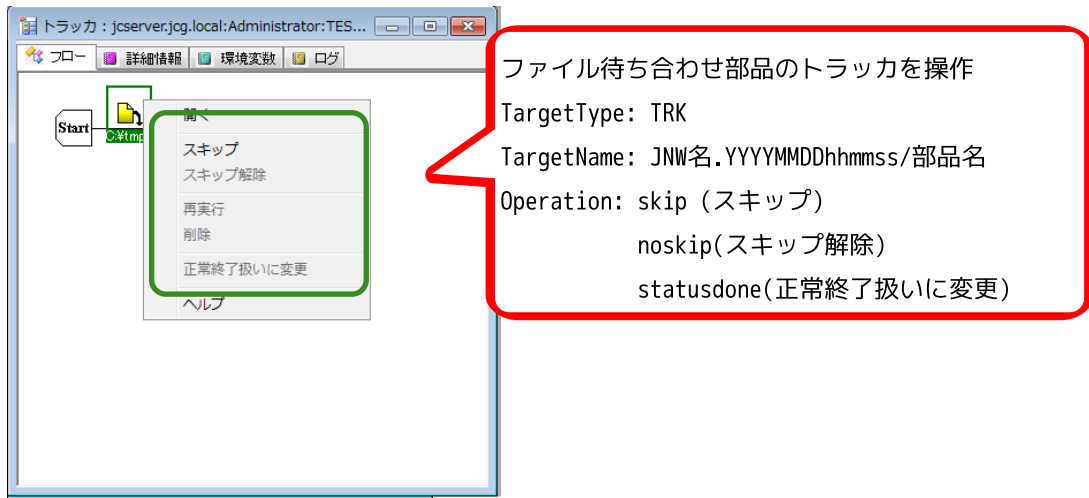


図7.22 ファイル待ち合わせ部品トラックに対する操作

7.1.2.5.14. 時刻待ち合わせ



図7.23 時刻待ち合わせ部品トラックに対する操作

7.1.3. [スケジュール一覧] タブ

[スケジュール一覧] タブから実行可能な操作のうち、スケジュールグループの作成、削除、有効/無効や、スケジュールの作成・編集・削除等に対して操作ログが出力されます。

7.1.3.1. スケジュールグループに対する操作

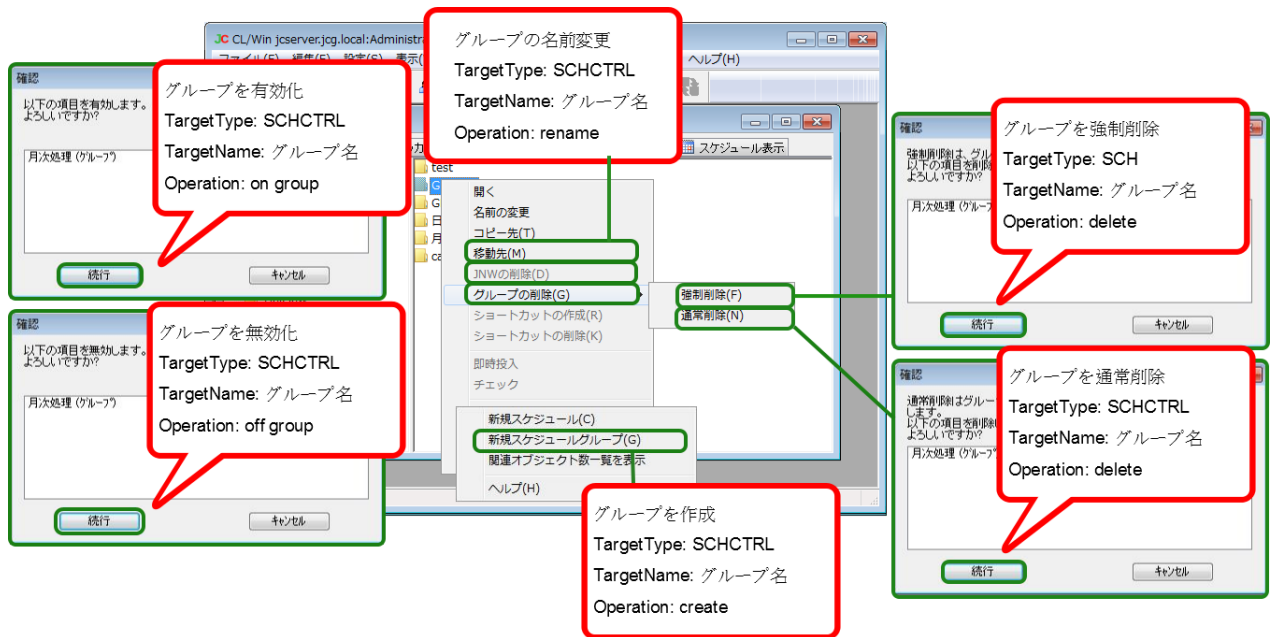


図7.24 スケジュールグループに対する操作

7.1.3.2. スケジュールに対する操作

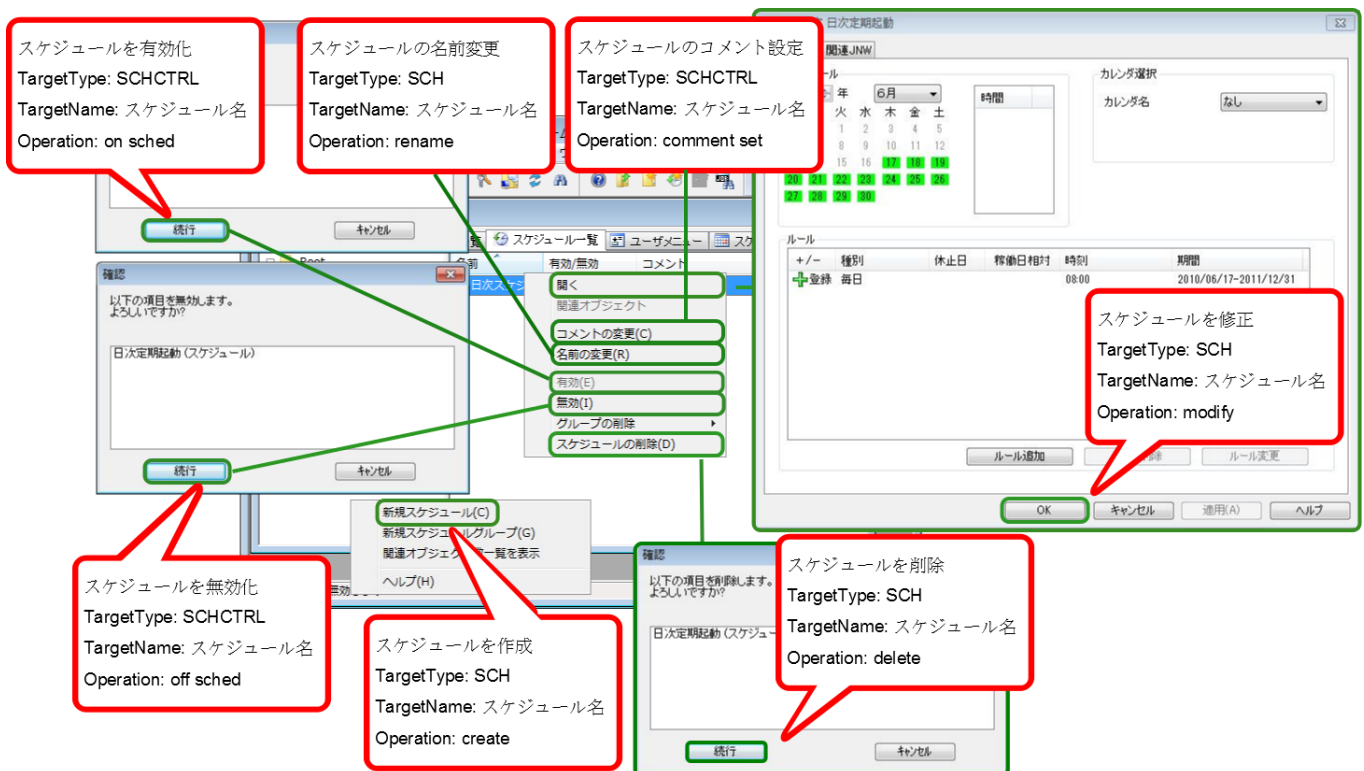


図7.25 スケジュールに対する操作

7.1.4. [ユーザメニュー] タブ

[ユーザメニュー] タブから実行可能な操作のうち、ジョブネットワークの投入に対して操作ログが出力されます。

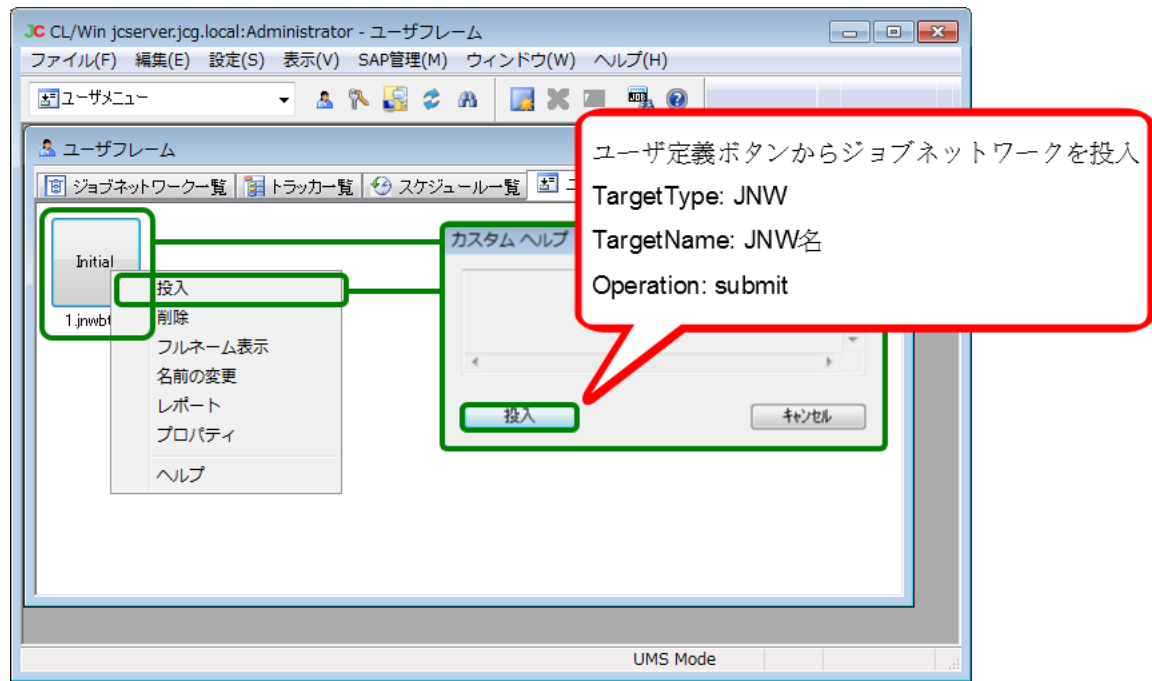


図7.26 ユーザメニューの操作

7.1.5. [システム環境設定] ダイアログ

[システム環境設定] ダイアログからは、システム環境設定の変更に対して操作ログが出力されます。

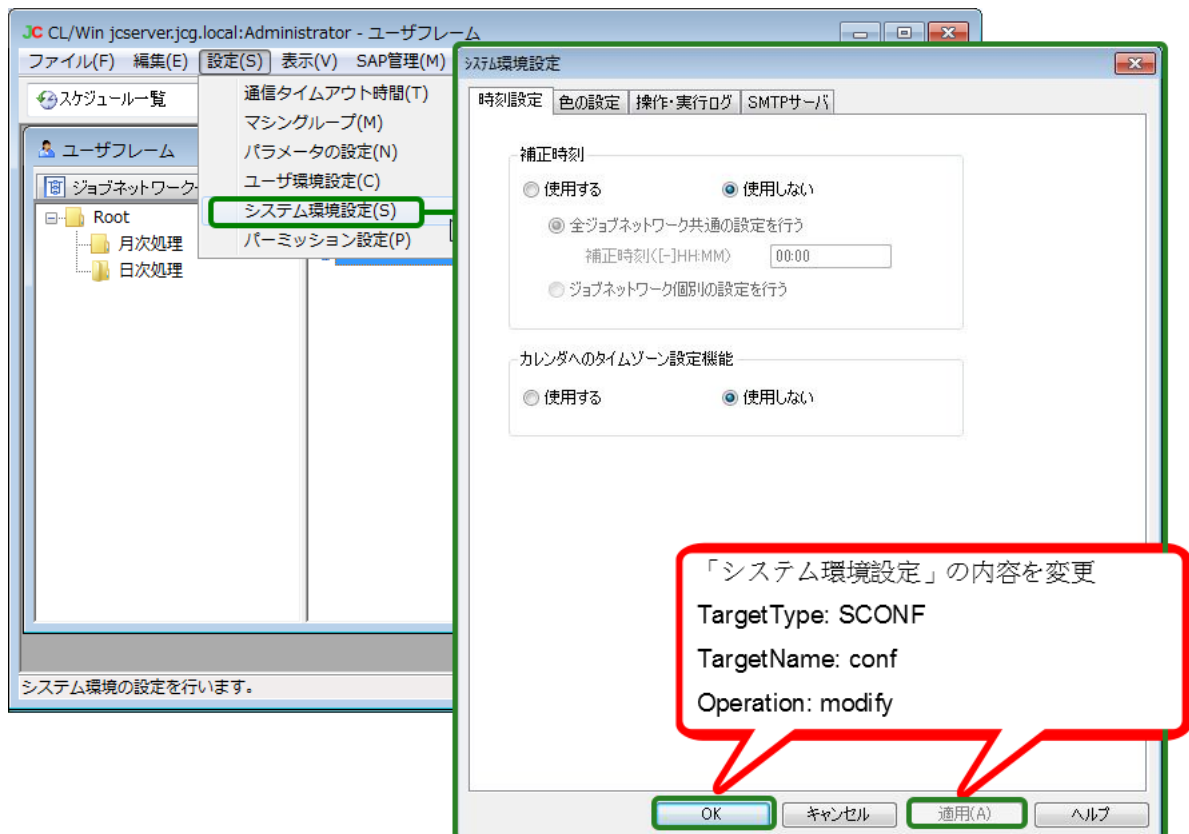


図7.27 システム環境設定に対する操作

7.1.6. [ユーザ環境設定] ダイアログ

[ユーザ環境設定] ダイアログからは、個々のユーザ環境設定の変更に対して操作ログが出力されます。

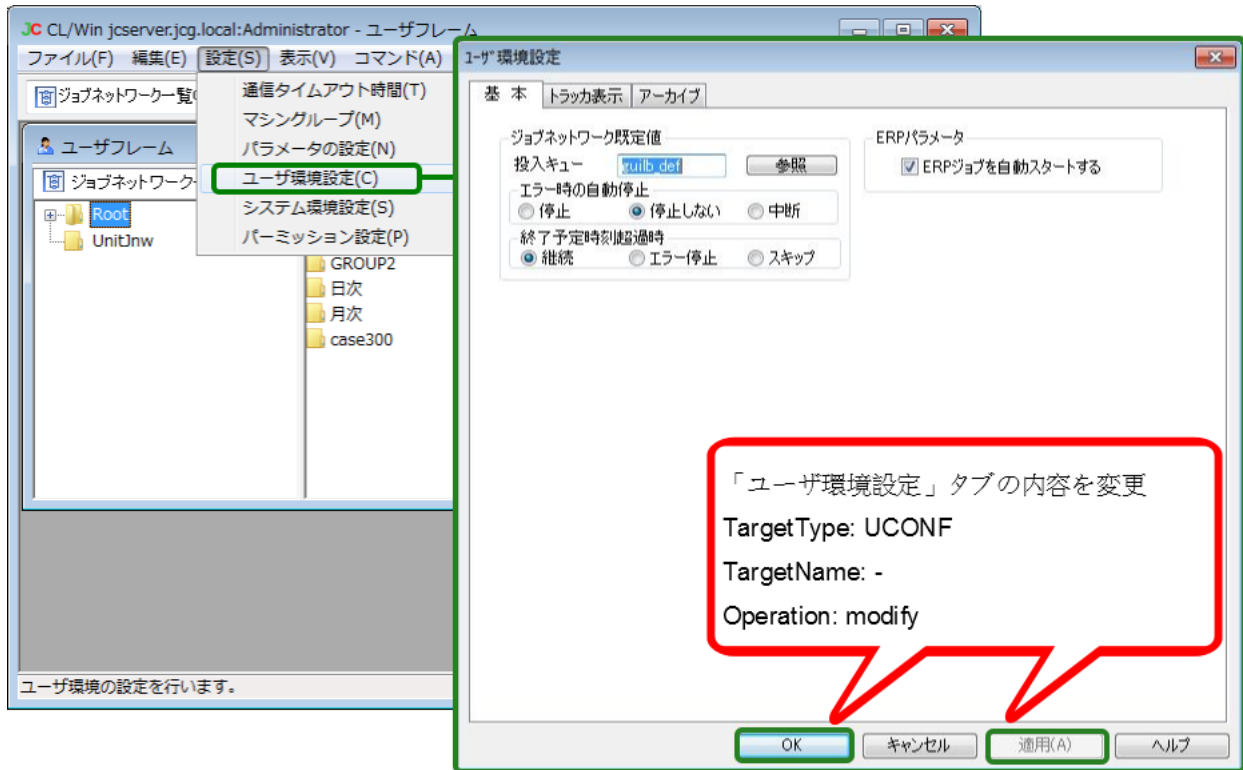


図7.28 ユーザ環境設定に対する操作

7.1.7. ジョブネットワークフローウィンドウ

ジョブネットワークフロー、ジョブネットワークフロー中の各部品のスクリプト、およびパラメータの変更に対して操作ログが出力されます。

7.1.7.1. ジョブネットワーク

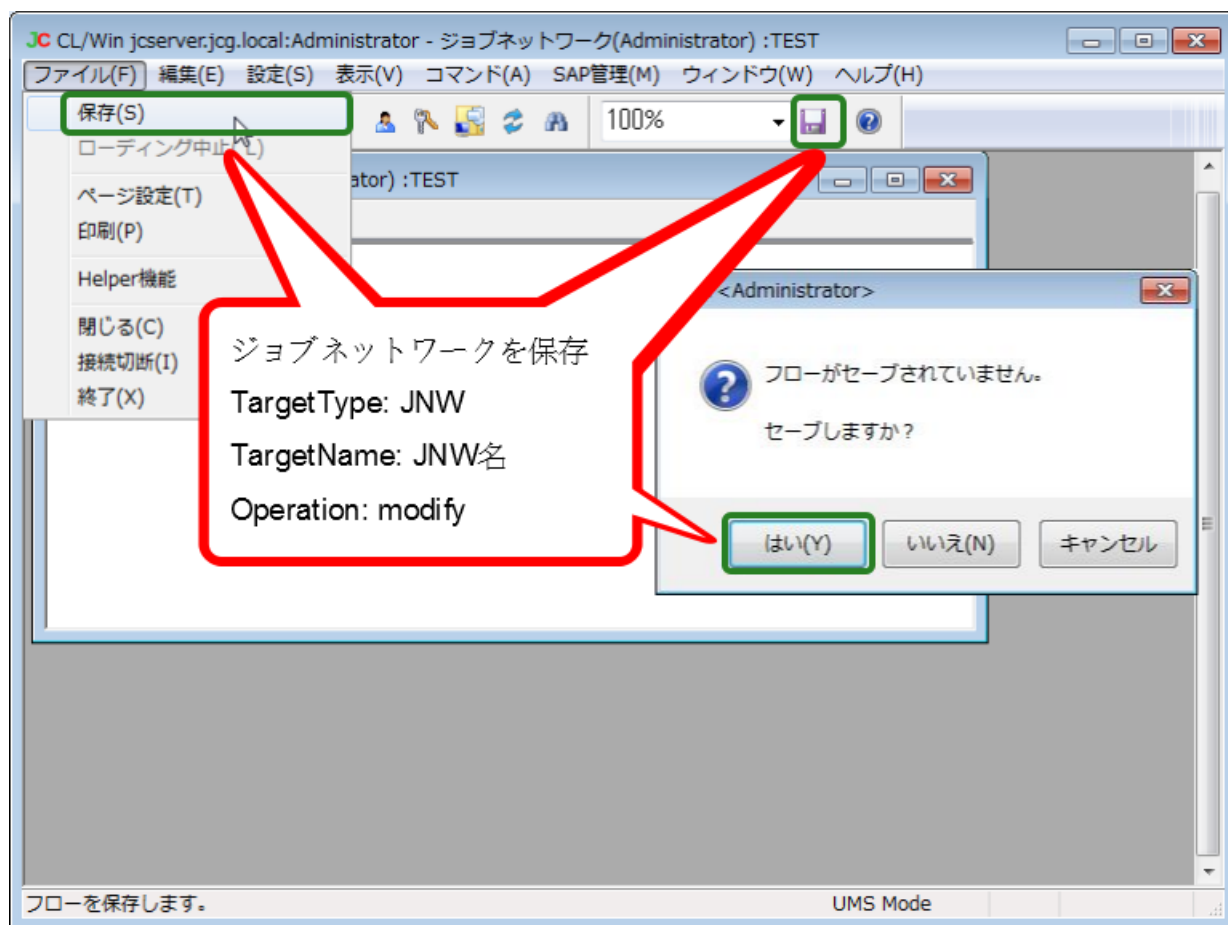


図7.29 ジョブネットワークフローに対する操作

7.1.7.2. 単位ジョブ

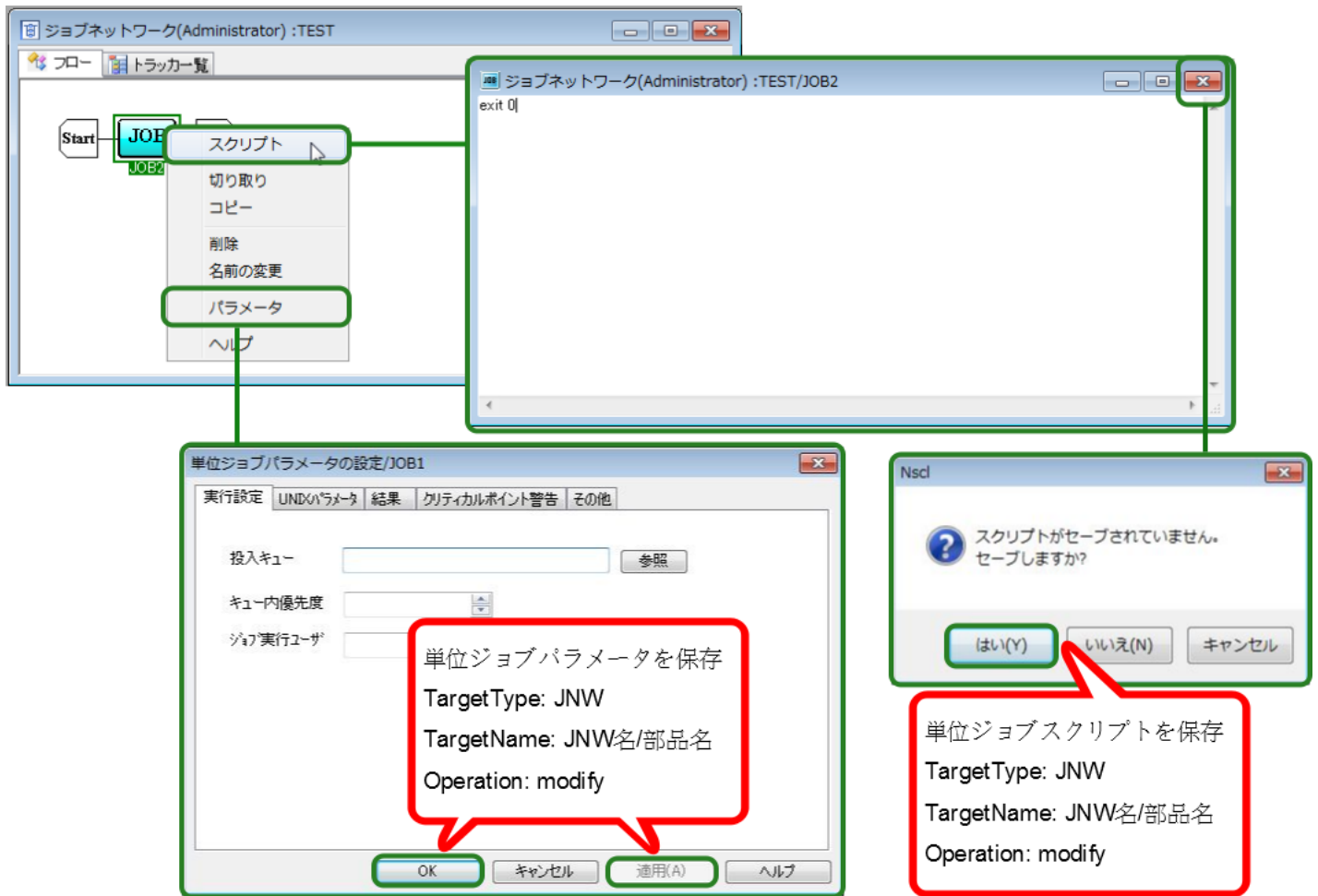


図7.30 単位ジョブに対する操作

7.1.7.3. ERPジョブ

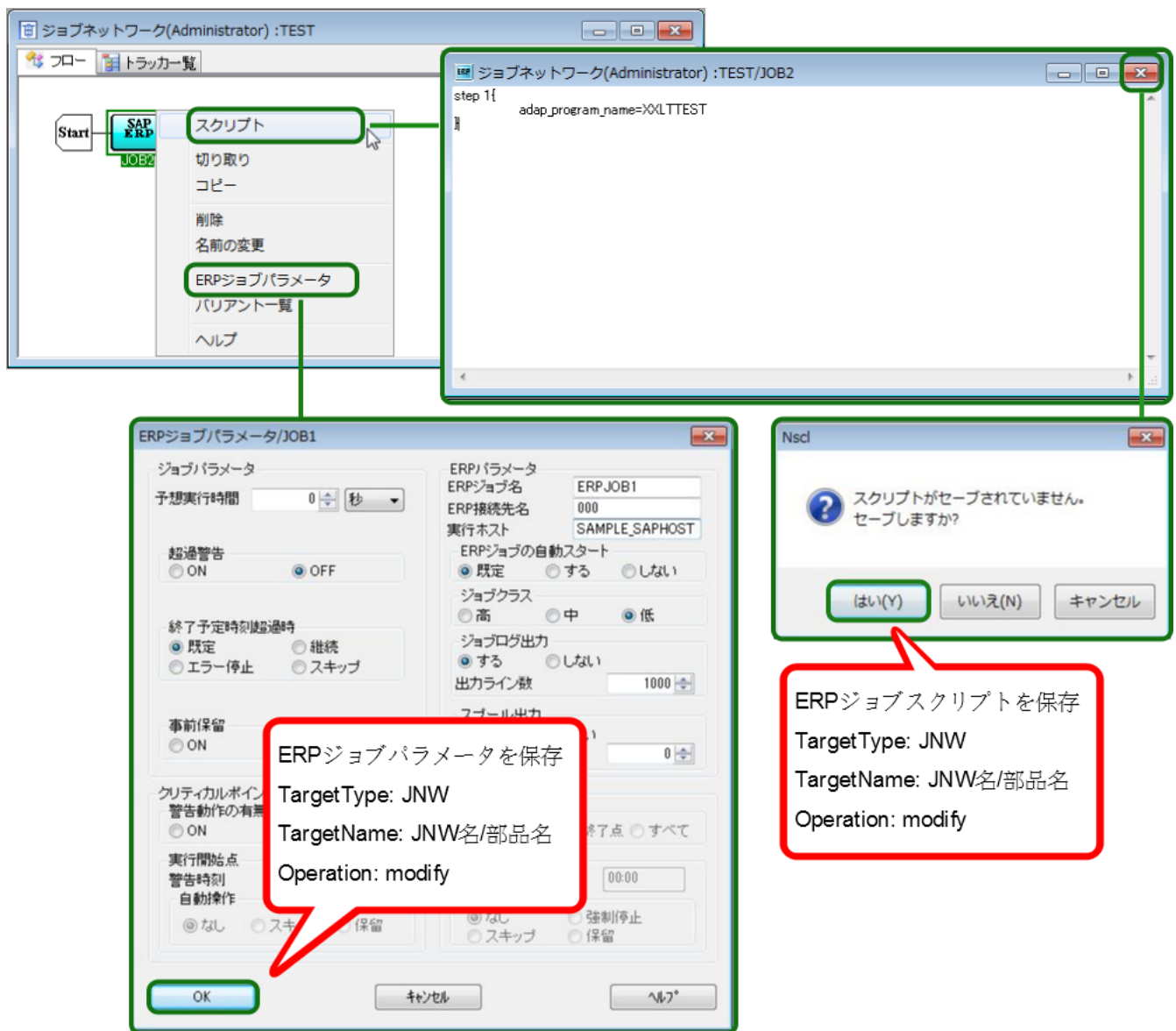


図7.31 ERPジョブに対する操作

7.1.7.4. BIジョブ

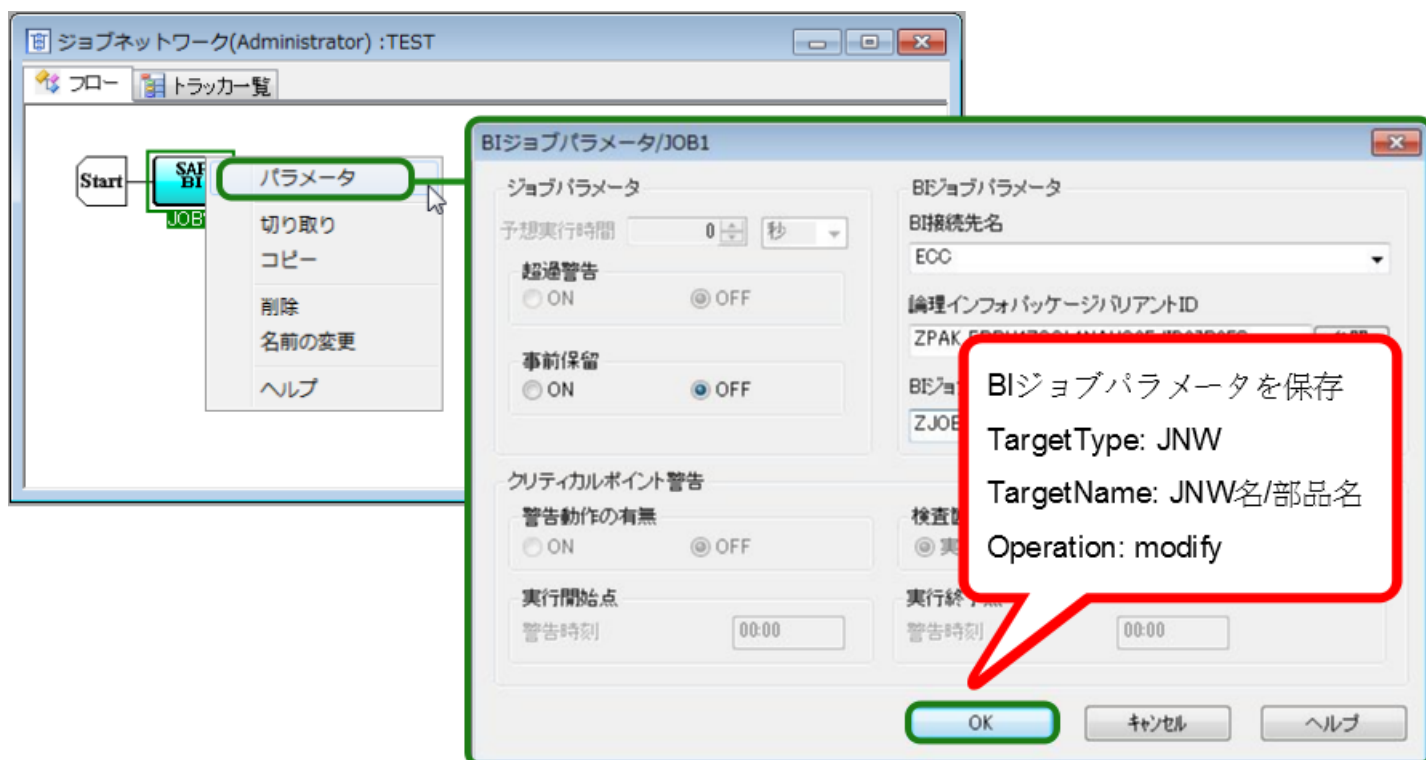


図7.32 BIジョブに対する操作

7.1.7.5. PCジョブ

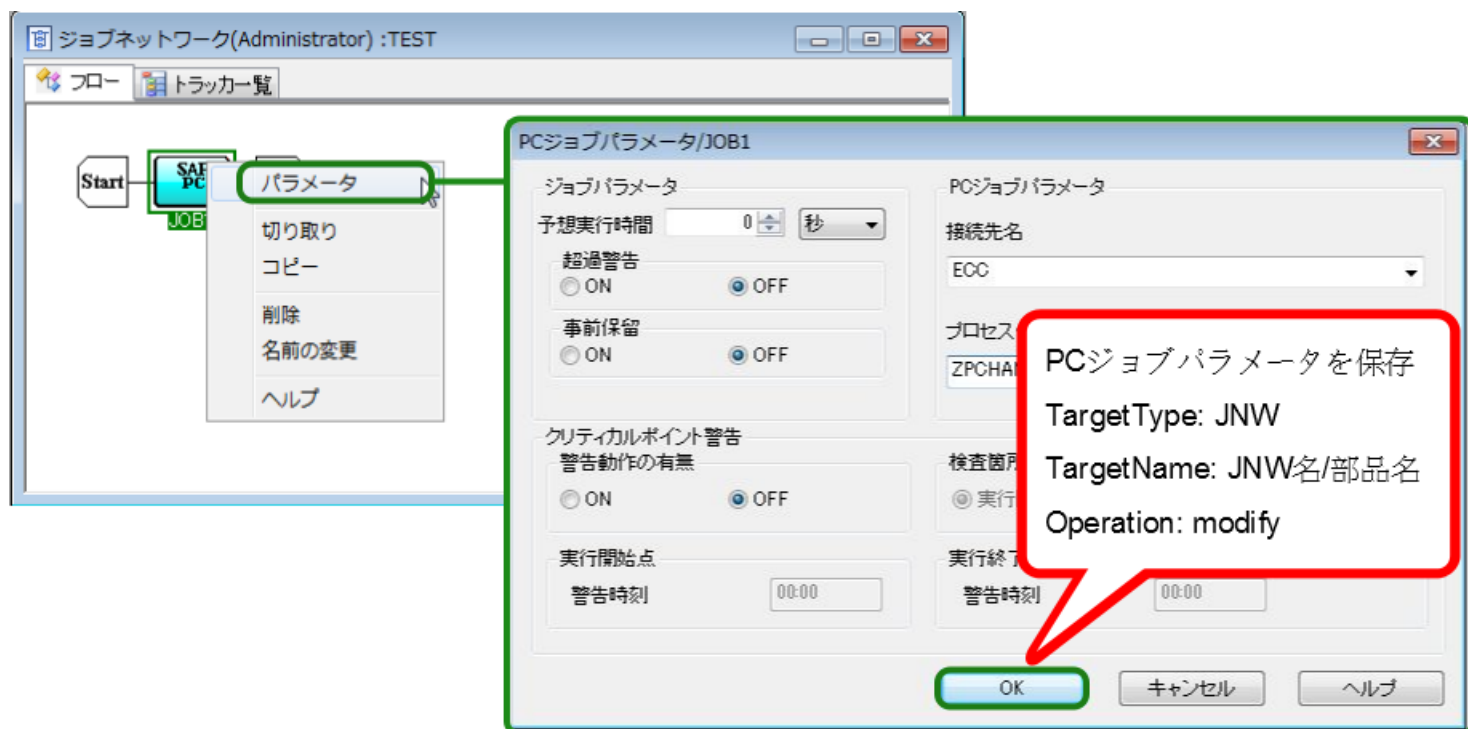


図7.33 PCジョブに対する操作

7.1.7.6. UCXSingleジョブ



図7.34 UCXSingleジョブに対する操作

7.1.7.7. ダイアログ

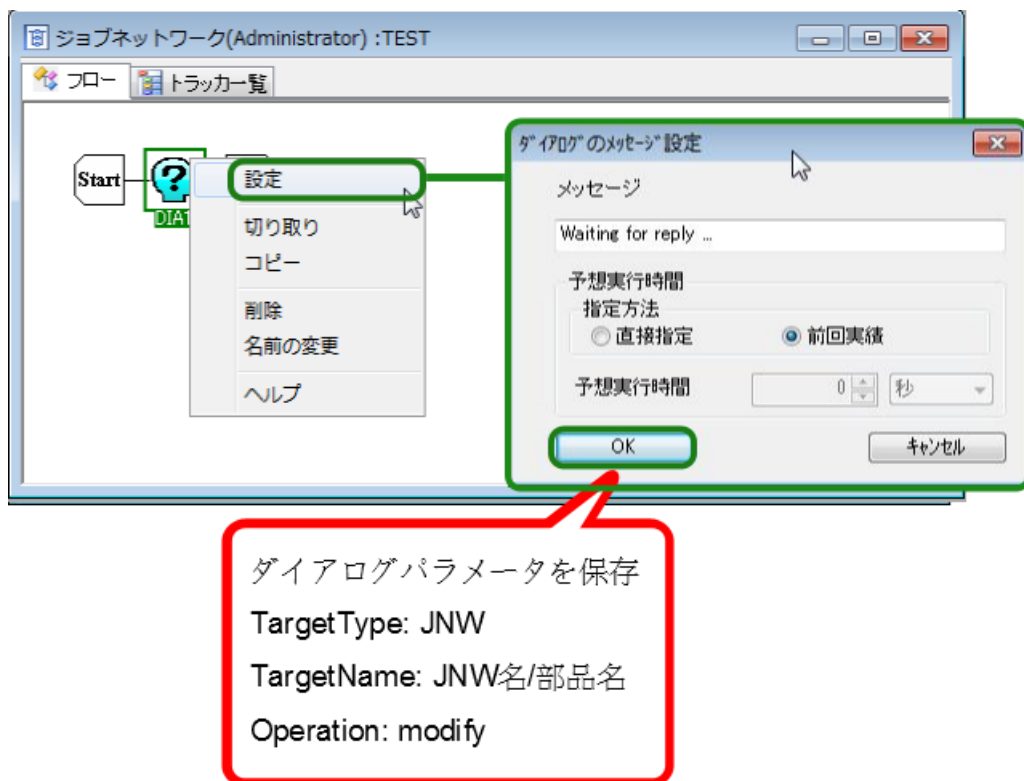


図7.35 ダイアログ部品に対する操作

7.1.7.8. コンティニュー

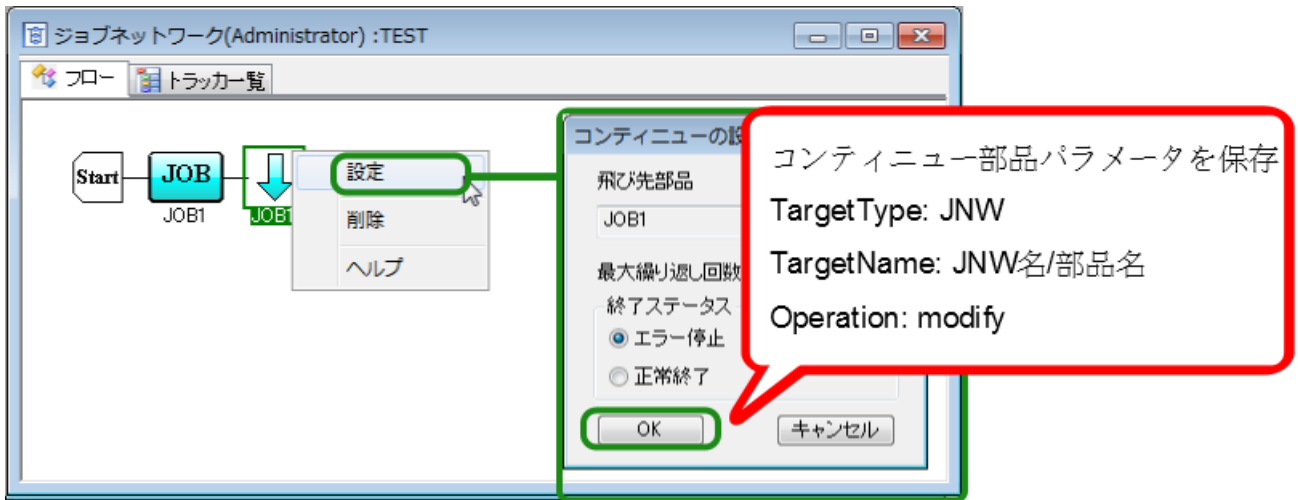


図7.36 コンティニュー部品に対する操作

7.1.7.9. イベント送信



図7.37 イベント送信部品に対する操作

7.1.7.10. イベント受信

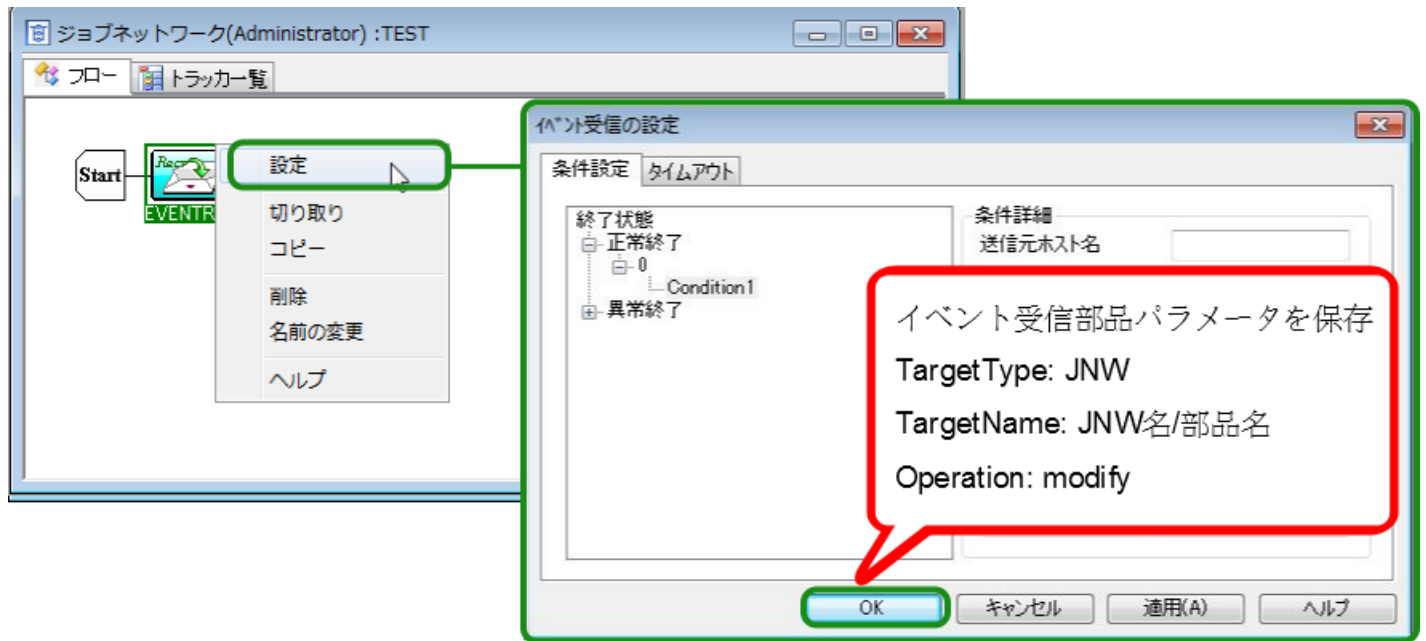


図7.38 イベント受信部品に対する操作

7.2. マネージャフレーム

7.2.1. [カレンダー一覧] タブ

[カレンダー一覧] タブから実行可能な操作のうち、カレンダーの作成・編集・削除に対して操作ログが出力されます。

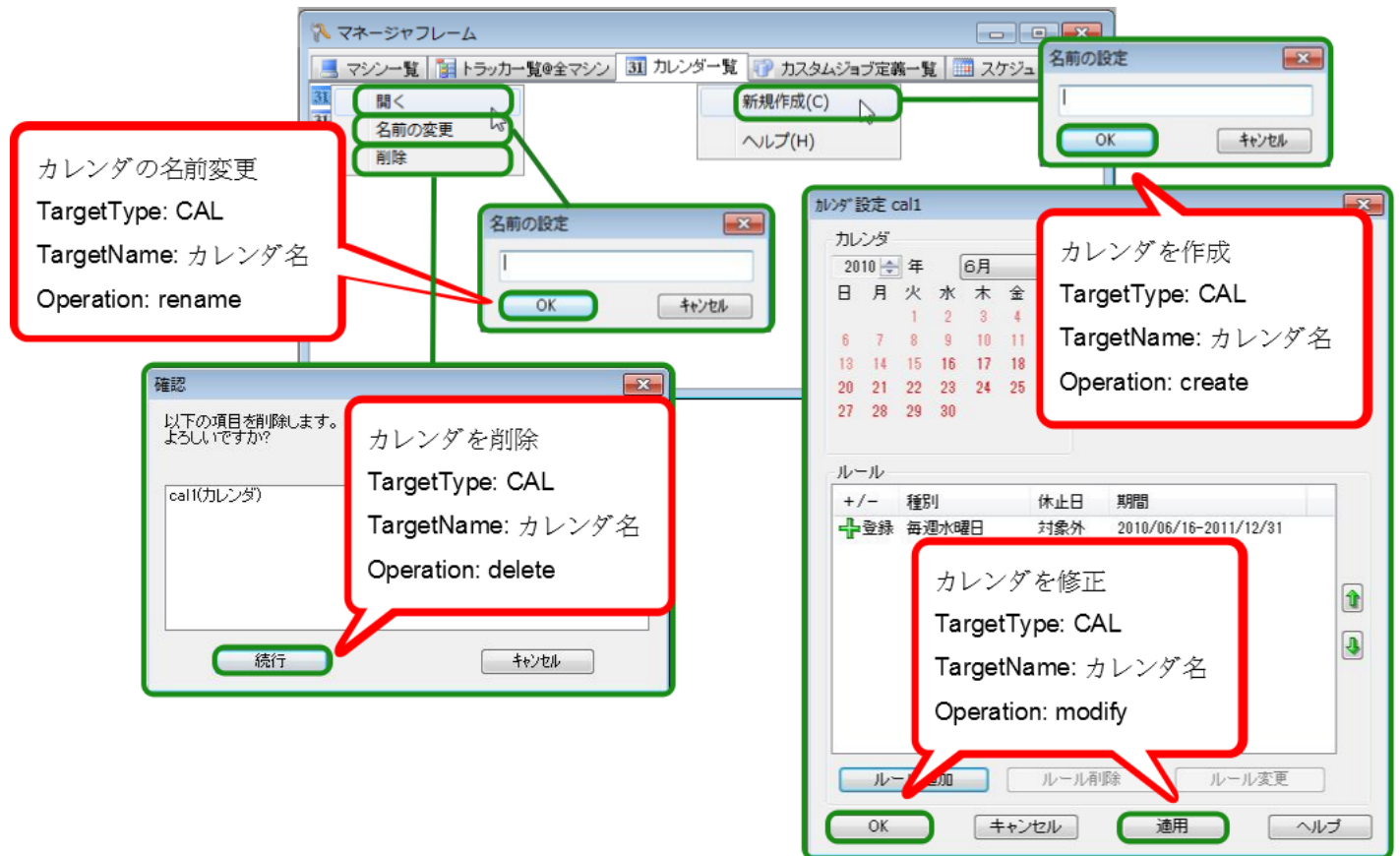


図7.39 マネージャフレーム上でのカレンダーに対する操作

7.3. その他

ユーザフレーム、マネージャフレーム以外での操作として、CL/Winへのログイン・ログアウト、[パーミッション設定]、[マシングループ設定]があります。

7.3.1. ログイン・ログアウト

CL/Winへのログイン・ログアウトを行った場合に操作ログが出力されます。

7.3.1.1. ログイン

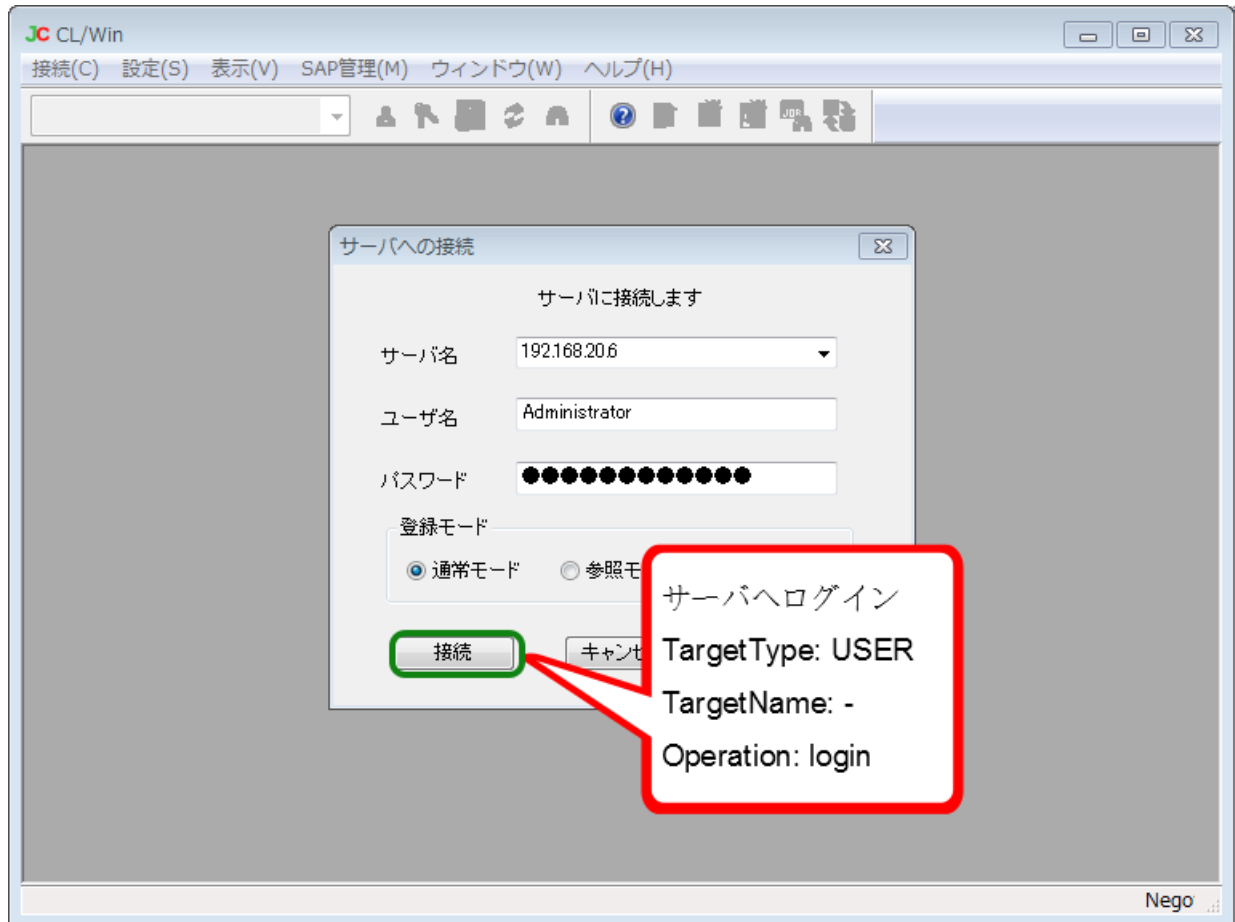


図7.40 ログイン画面での操作

7.3.1.2. ログアウト

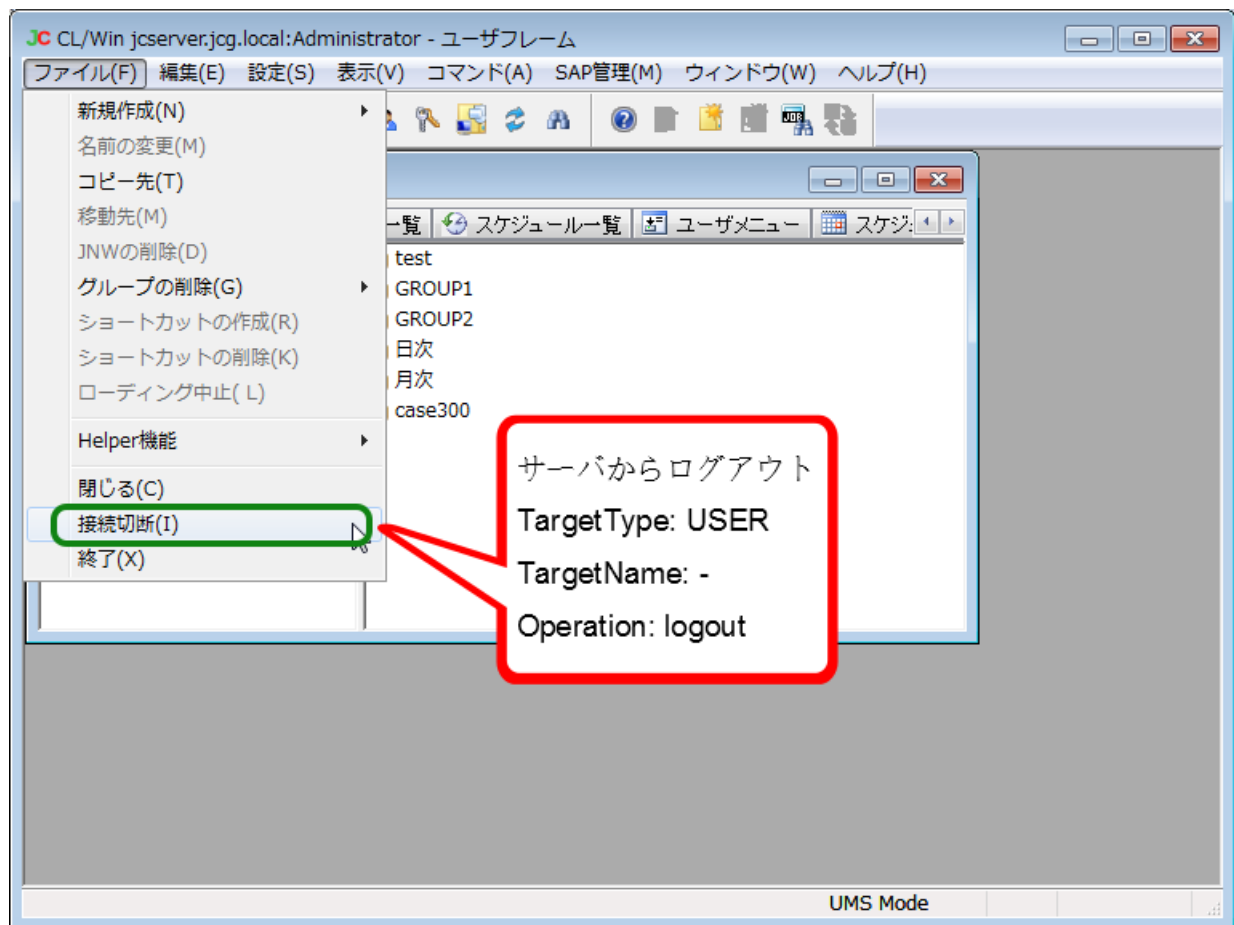


図7.41 ログアウト操作



ファイルメニューの[終了]及び画面右上の[X]ボタンを押した場合、CL/WinをログアウトしつつCL/Winを終了します。

7.3.2. [パーミッション設定] ダイアログ

[パーミッション設定]ダイアログでは、[権限グループ設定]タブ及び[権限設定]タブの内容を変更した場合に操作ログが出力されます。

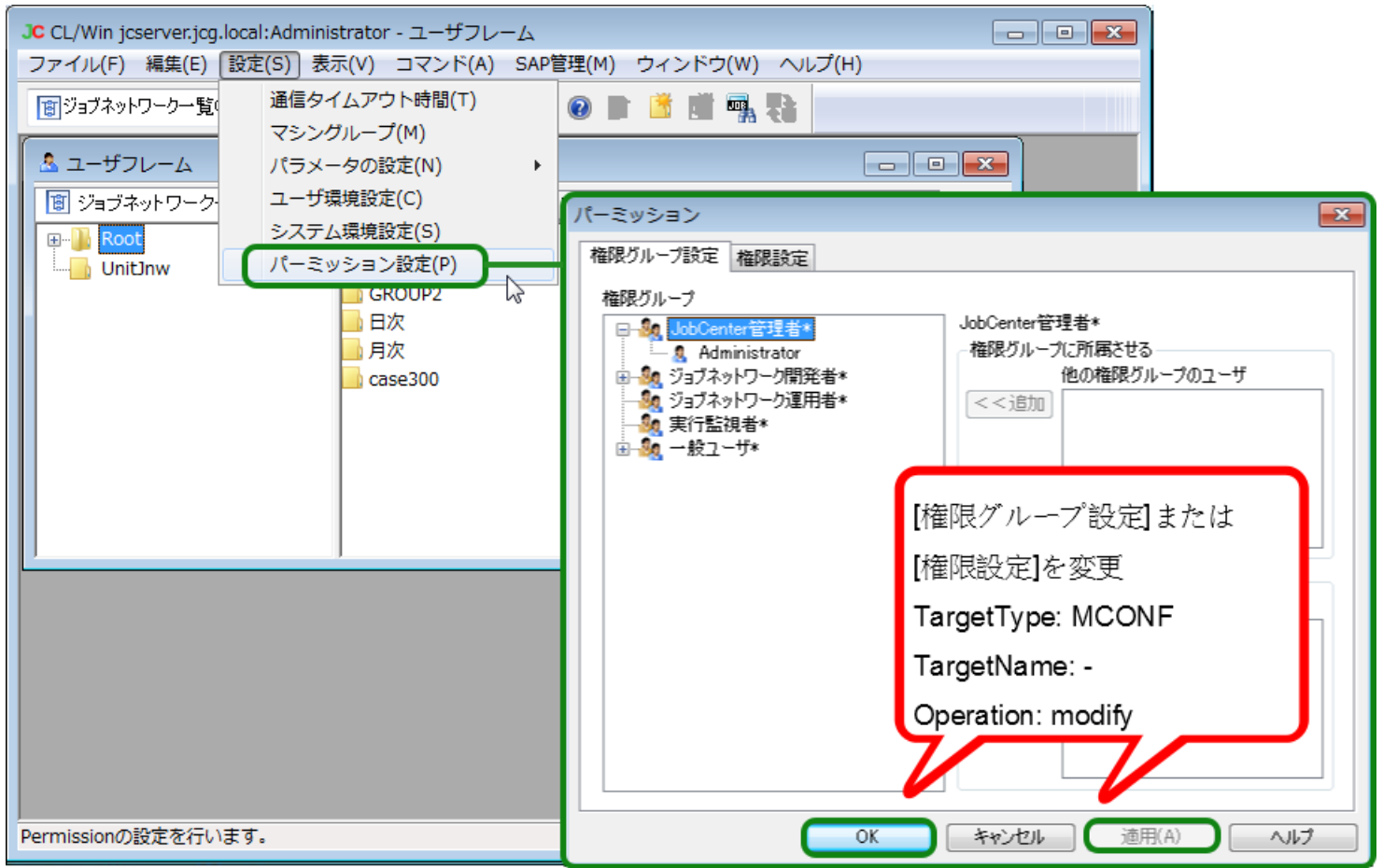


図7.42 パーミッション設定の操作

7.3.3. [マシングループ]ダイアログ

[マシングループ]ダイアログでは、マシングループにメンバマシンを追加・削除した場合に操作ログが出力されます。

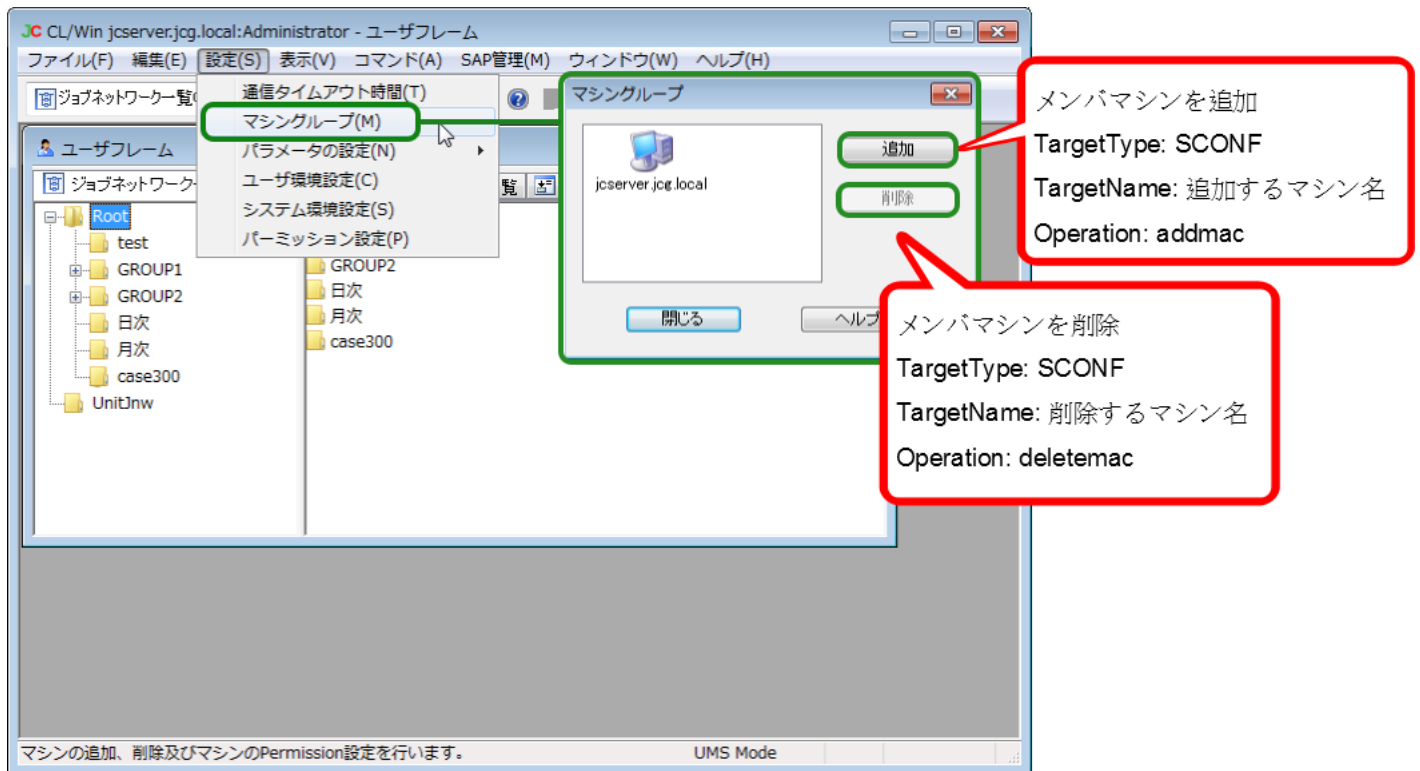


図7.43 マシングループに対する操作

7.3.4. JPFのアップロード、ダウンロード

JPFファイルのアップロード、ダウンロード時に操作ログが出力されます。JPFのチェックに関しては操作ログは出力されません。

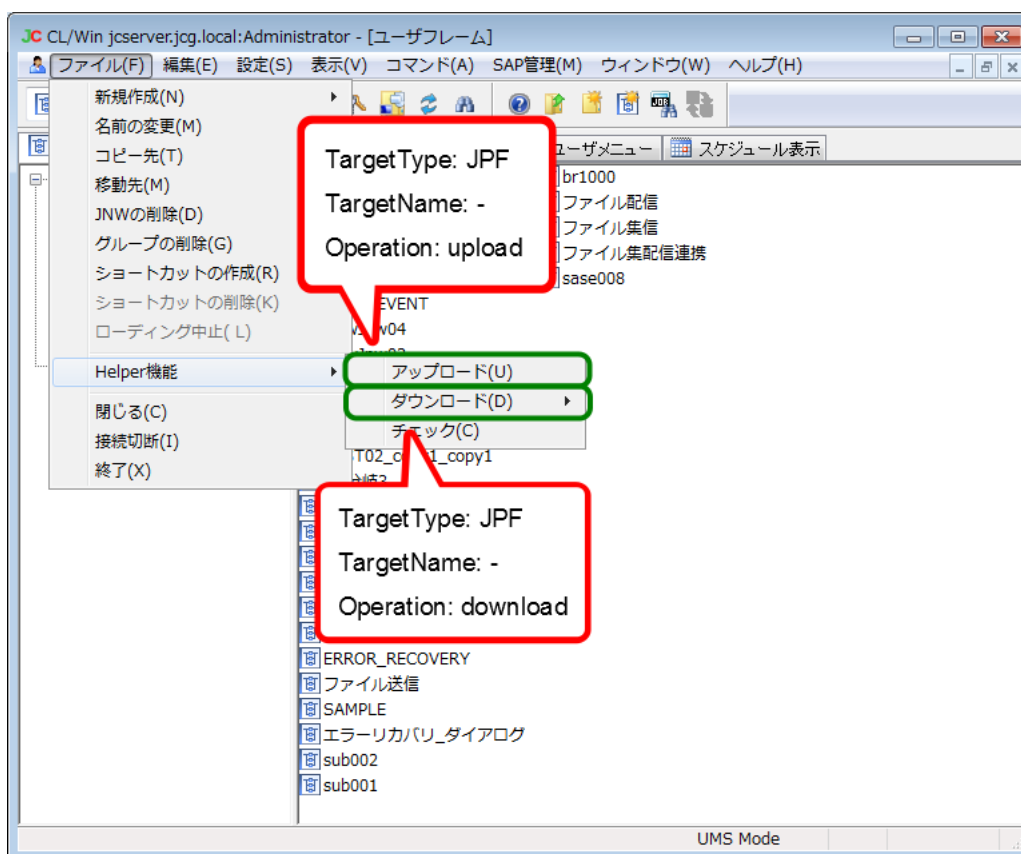


図7.44 JPFのアップロード・ダウンロード

